

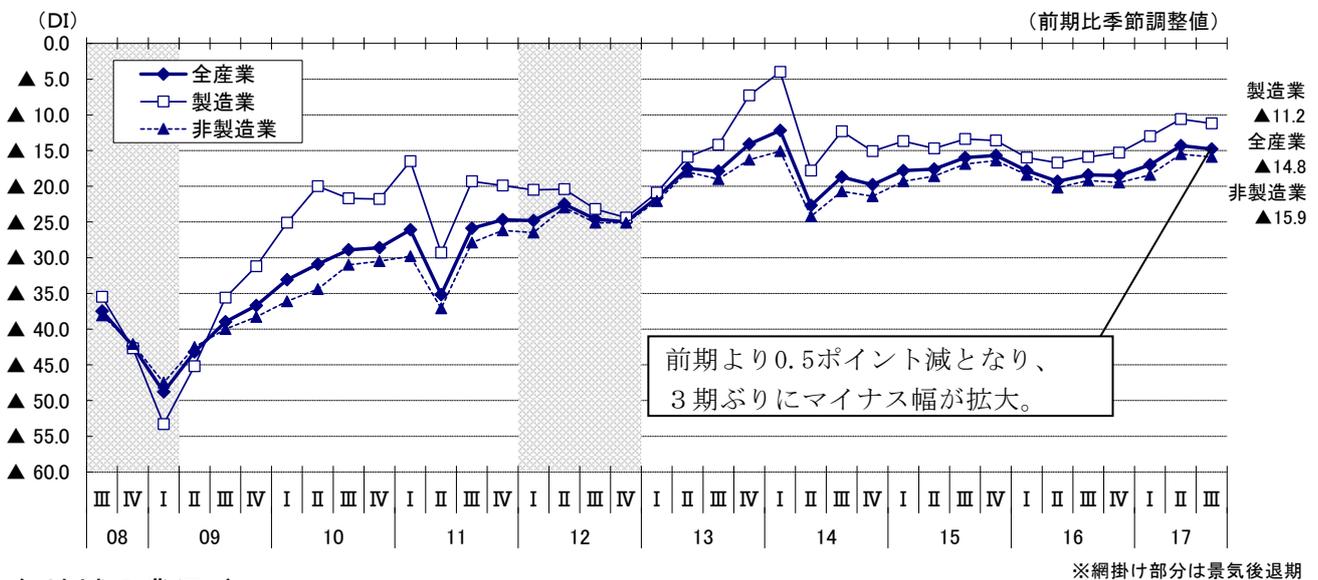
第149回 中小企業景況調査報告書 (2017年7-9月期) 〈全産業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)
URL:http://www.smrj.go.jp/keiei/chosa/keikyo/

中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりにやや低下した。(▲14.3→▲14.8)

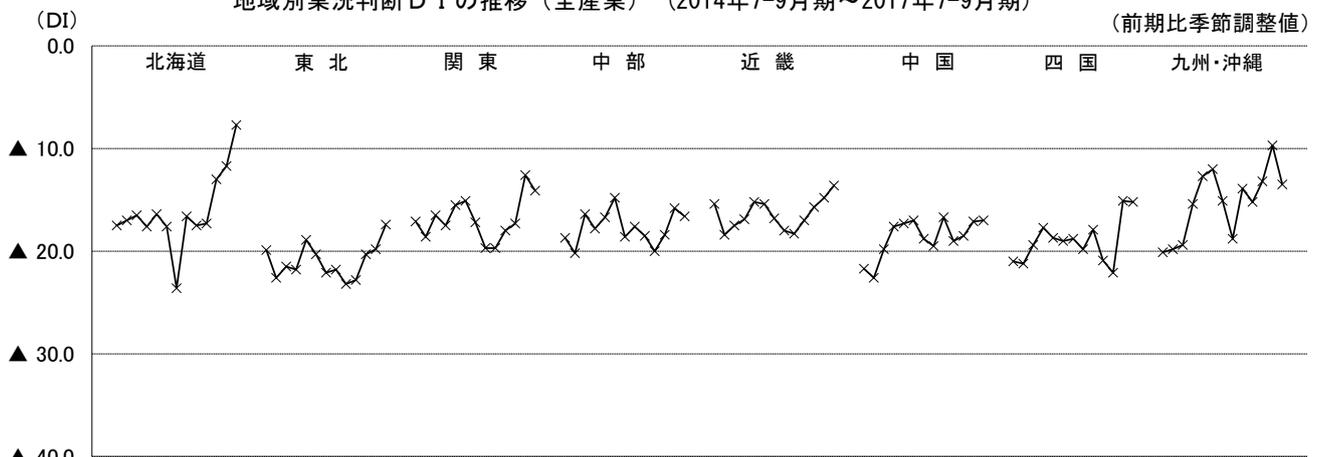
中小企業の業況判断DIの推移



〈地域の業況〉

北海道、東北など4地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄など4地域でマイナス幅が拡大した。

地域別業況判断DIの推移(全産業) (2014年7-9月期~2017年7-9月期)



- (注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

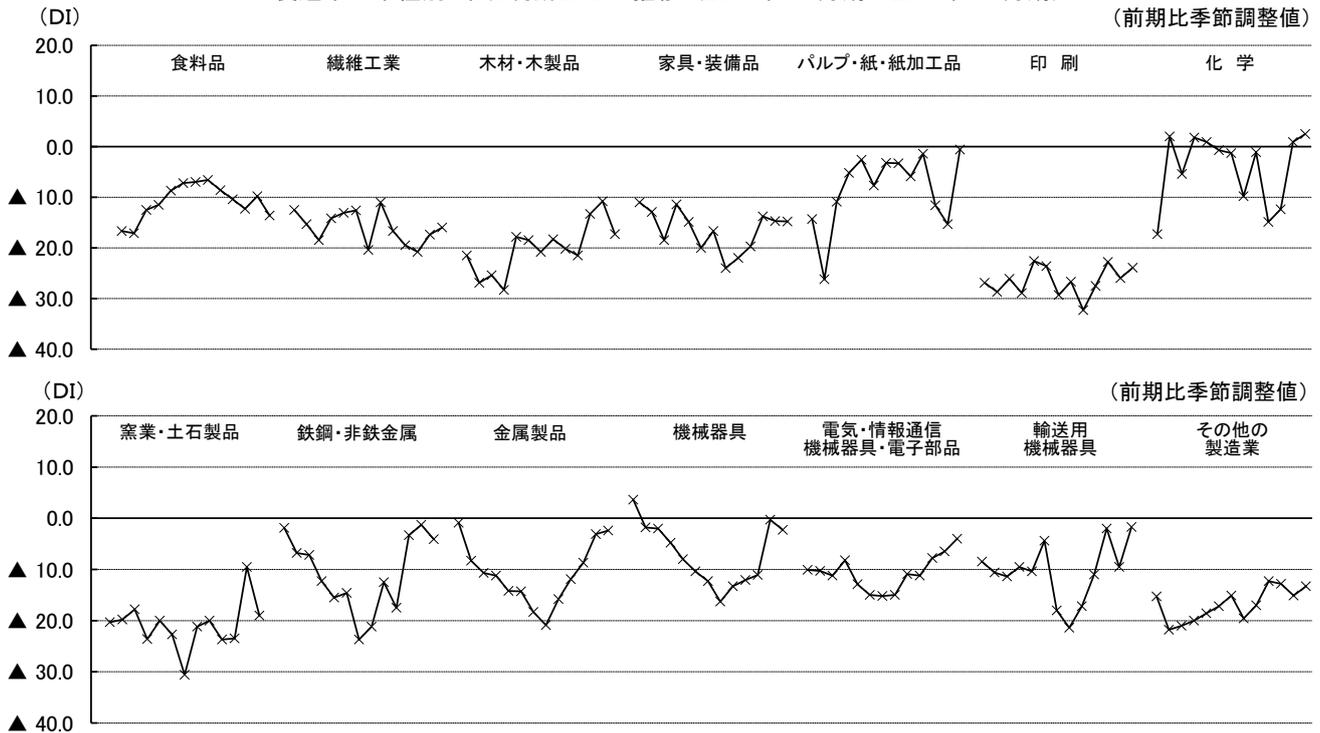
1. 業況判断D I

(1) 製造業

製造業の業況判断D Iは、（前期▲10.6→）▲11.2（前期差0.6ポイント減）とマイナス幅が拡大した。

製造業の14業種の内訳では、化学で2.5（前期差1.6ポイント増）とプラス幅が拡大し、パルプ・紙・紙加工品で▲0.6（前期差14.7ポイント増）、輸送用機械器具で▲1.7（前期差7.8ポイント増）、電気・情報通信機械器具・電子部品で▲4.0（前期差2.5ポイント増）、印刷で▲23.9（前期差2.1ポイント増）など7業種でマイナス幅が縮小し、窯業・土石製品で▲19.0（前期差9.5ポイント減）、木材・木製品で▲17.3（前期差6.5ポイント減）、食料品で▲13.6（前期差3.8ポイント減）など6業種でマイナス幅が拡大した。

製造業 業種別 業況判断D Iの推移（2014年7-9月期～2017年7-9月期）

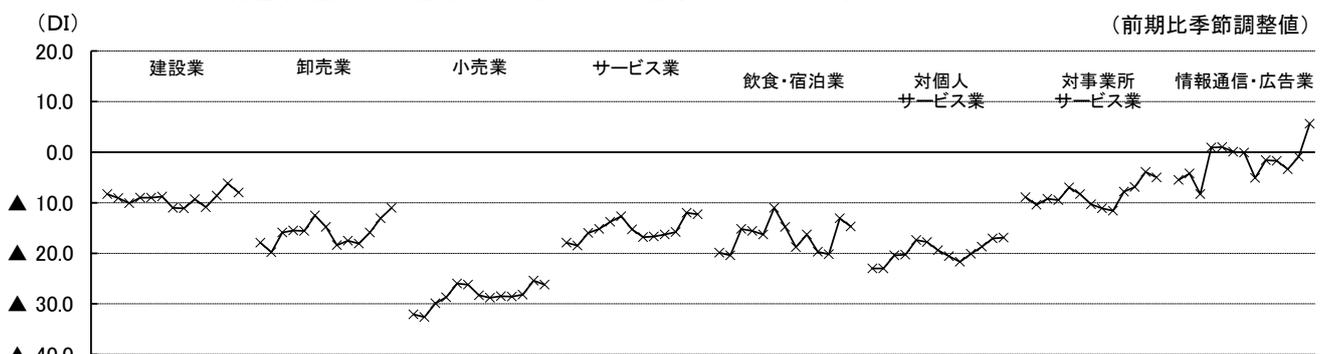


(2) 非製造業

非製造業の業況判断D Iは、（前期▲15.5→）▲15.9（前期差0.4ポイント減）とマイナス幅が拡大した。

産業別に見ると、卸売業で▲11.0（前期差2.1ポイント増）とマイナス幅が縮小し、建設業で▲8.0（前期差1.8ポイント減）、小売業で▲26.2（前期差0.8ポイント減）、サービス業で▲12.3（前期差0.3ポイント減）とマイナス幅が拡大した。

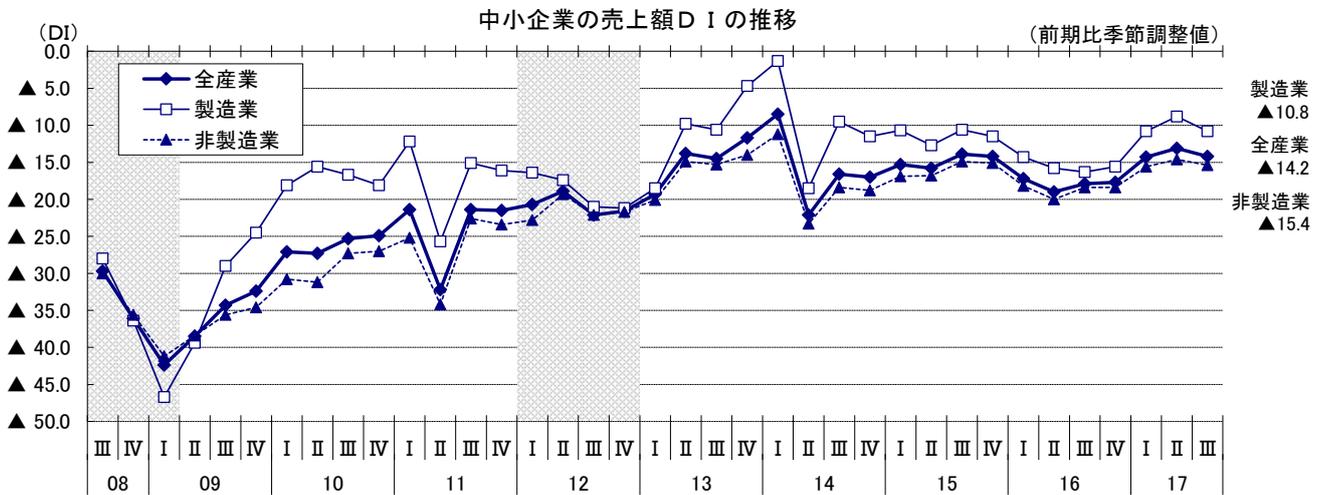
非製造業 産業・業種別 業況判断D Iの推移（2014年7-9月期～2017年7-9月期）



(注) 「対個人サービス業」は、洗濯・理容・美容・浴場業、自動車整備業、物品賃貸業等の10業種。
「対事業所サービス業」は、道路貨物運送業、倉庫業、廃棄物処理業等の10業種。

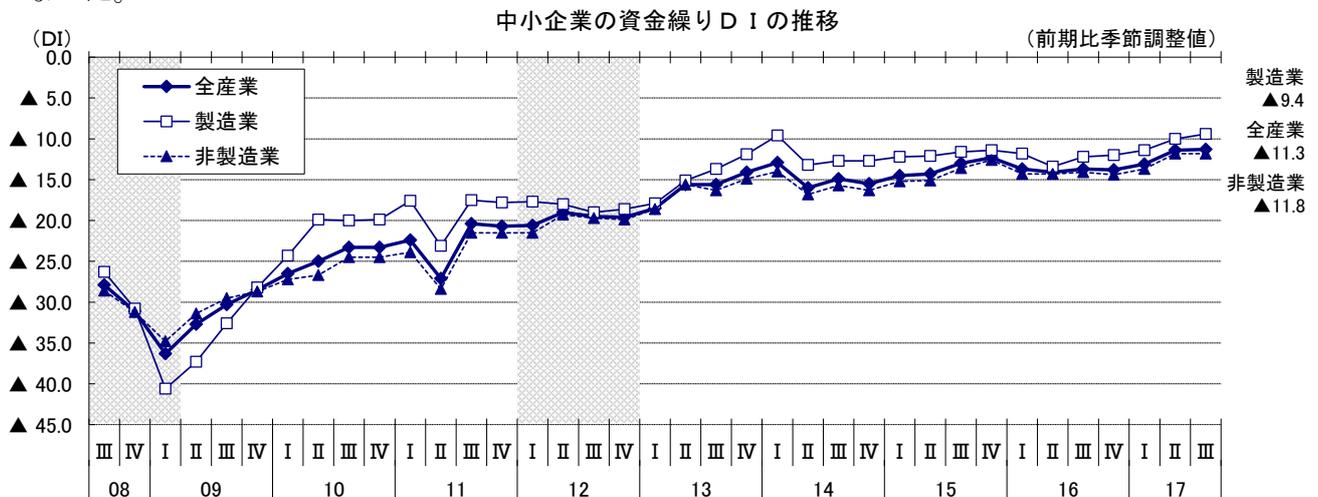
2. 売上額D I

全産業の売上額D Iは、（前期▲13.1→）▲14.2（前期差1.1ポイント減）とマイナス幅が拡大した。産業別に見ると、製造業で（前期▲8.8→）▲10.8（前期差2.0ポイント減）、非製造業で（前期▲14.6→）▲15.4（前期差0.8ポイント減）といずれもマイナス幅が拡大した。



3. 資金繰りD I

全産業の資金繰りD Iは、（前期▲11.4→）▲11.3（前期差0.1ポイント増）とマイナス幅がわずかに縮小した。産業別に見ると、製造業で（前期▲10.0→）▲9.4（前期差0.6ポイント増）とマイナス幅が縮小し、非製造業で（前期▲11.8→）▲11.8（前期差0.0ポイント）と横ばいとなった。



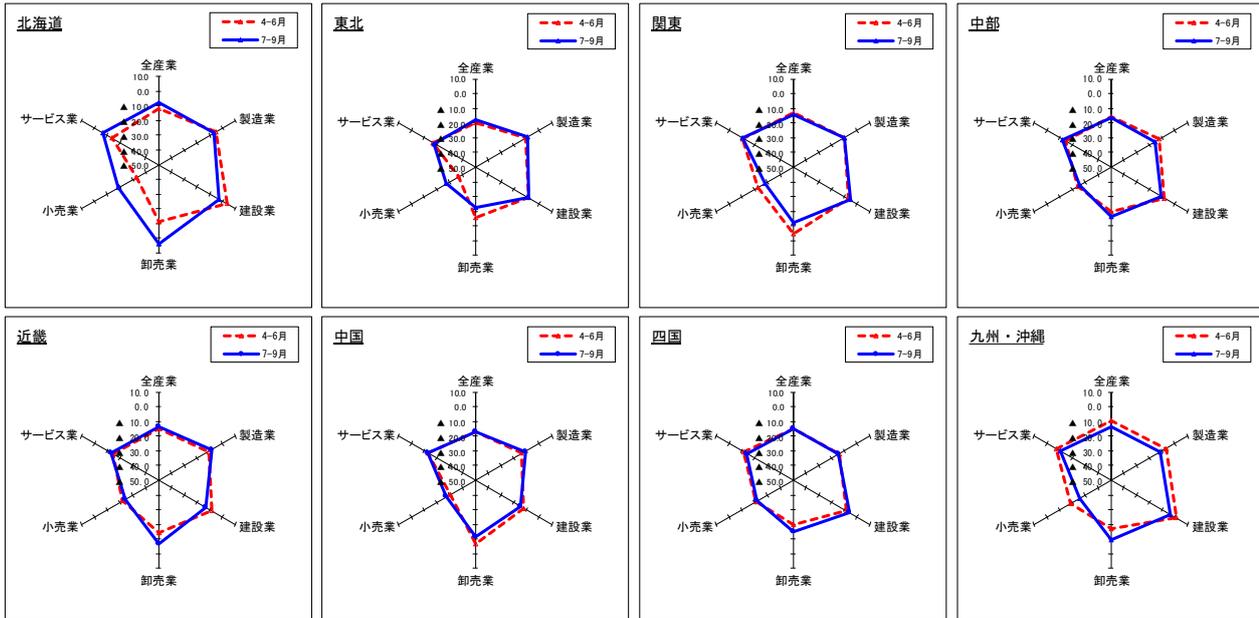
4. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、全産業で18.2%（前期差1.2ポイント増）と増加した。

設備投資実施企業割合（実施企業／回答企業×100） 単位：%

	実績				来期計画	
	28年 7～9月期	10～12月期	29年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
全産業	17.5	16.8	15.5	17.0	18.2	16.7
製造業	22.3	21.5	20.1	20.7	23.4	22.8
建設業	19.5	17.5	18.2	20.1	20.1	15.7
卸売業	19.0	19.1	19.6	20.5	18.6	16.9
小売業	11.8	11.4	9.8	11.6	12.0	11.5
サービス業	17.2	16.5	14.6	16.5	18.2	16.3

5. 各地域における産業別の動向

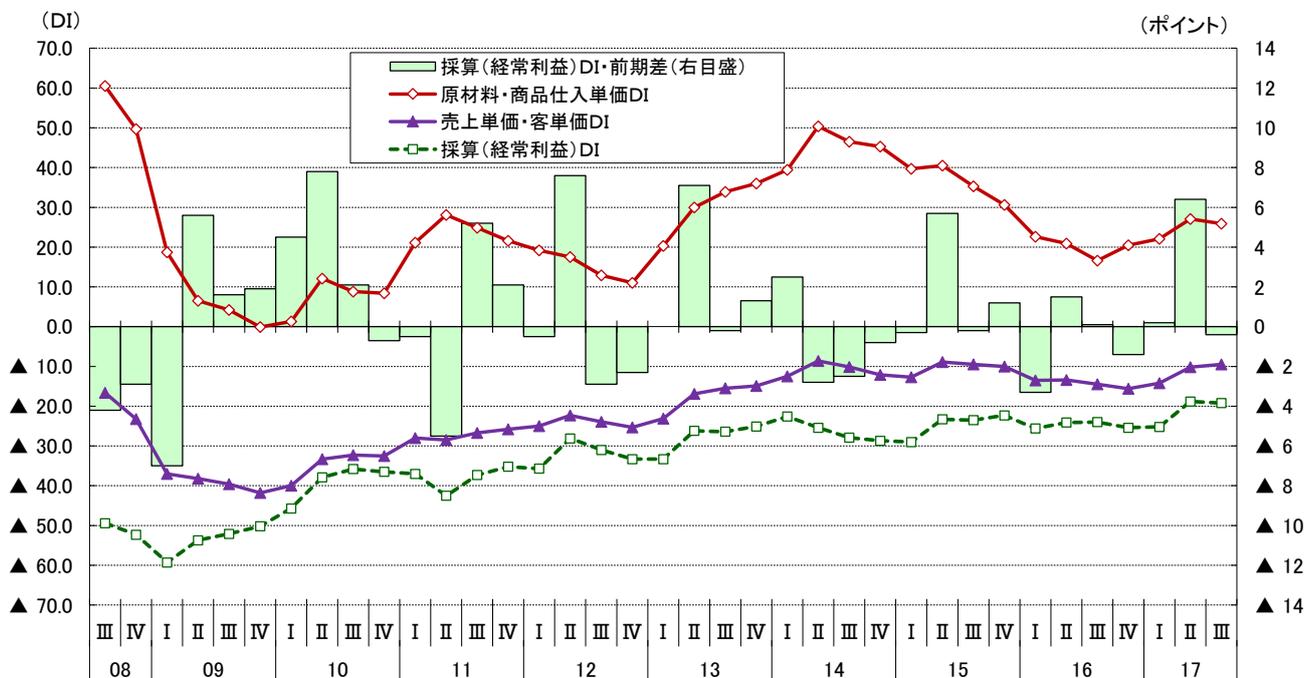


<トピックス①> 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



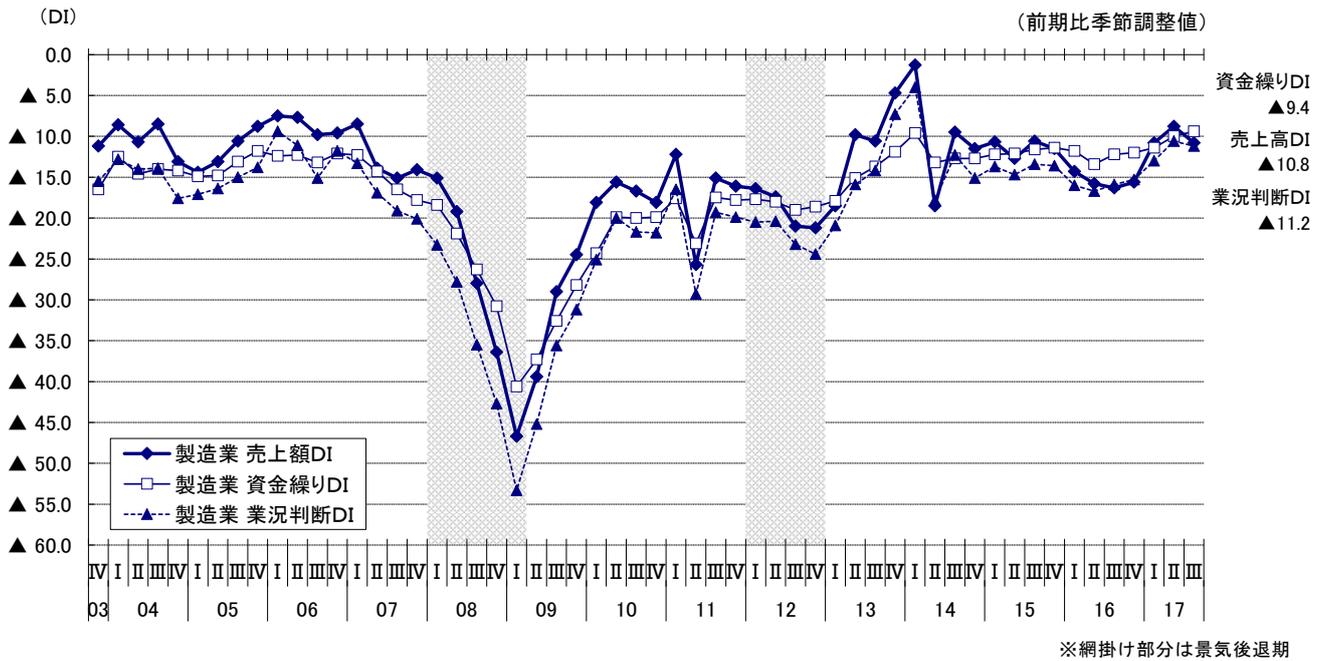
[調査要領]

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）

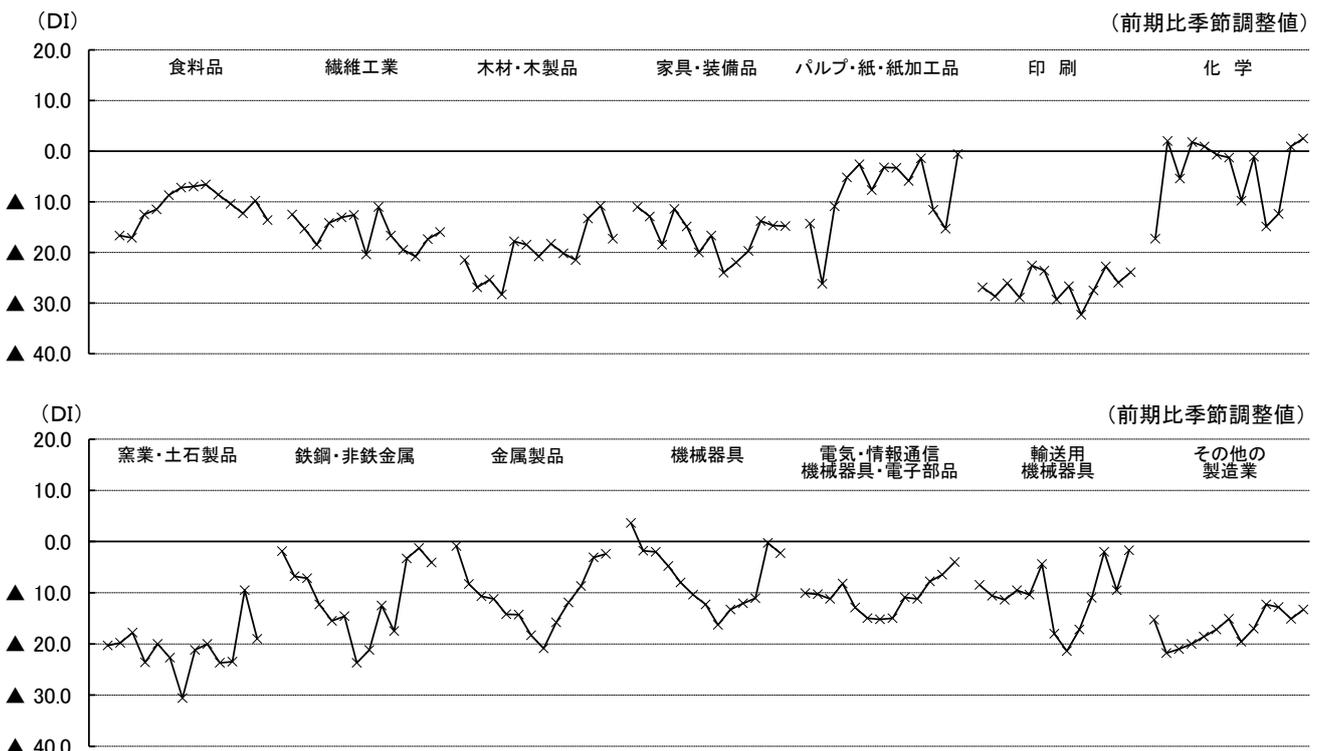
1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、▲11.2（前期差0.6ポイント減）とマイナス幅が拡大した。また、売上高DIは、▲10.8（前期差2.0ポイント減）とマイナス幅が拡大し、資金繰りDIは、▲9.4（前期差0.6ポイント増）とマイナス幅が縮小した。

製造業の14業種の内訳では、化学で2.5（前期差1.6ポイント増）とプラス幅が拡大し、パルプ・紙・紙加工品で▲0.6（前期差14.7ポイント増）、輸送用機械器具で▲1.7（前期差7.8ポイント増）、電気・情報通信機械器具・電子部品で▲4.0（前期差2.5ポイント増）など7業種でマイナス幅が縮小し、窯業・土石製品で▲19.0（前期差9.5ポイント減）、木材・木製品で▲17.3（前期差6.5ポイント減）など6業種でマイナス幅が拡大した。



製造業 業種別 業況判断DI（2014年7-9月期～2017年7-9月期）



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、製造業全体で23.4%（前期差2.7ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
29年7-9月期	25.7	16.4	16.1	12.8	20.5	20.3	28.4	19.3	29.2	27.4	27.2	23.1	41.1	19.7	23.4
29年4-6月期	20.9	15.7	11.7	10.4	23.3	15.8	33.8	20.5	31.4	27.6	22.3	21.1	34.3	16.8	20.7
29年1-3月期	20.6	16.1	11.9	12.2	15.3	17.7	29.0	20.4	27.2	23.6	20.5	24.5	35.1	16.8	20.1
28年10-12月期	22.1	15.3	13.8	14.1	20.0	21.6	32.3	21.8	27.5	25.6	25.7	23.4	28.7	15.5	21.5
28年7-9月期	23.8	16.0	11.7	15.1	22.4	21.6	31.3	20.7	31.3	27.3	25.9	24.7	32.2	15.1	22.3

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「需要の停滞」が1位にあげられており、前回4位の「従業員の確保難」が2位に、前回2位の「製品ニーズの変化への対応」が4位に、前回6位の「原材料価格の上昇」が5位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	需要の停滞 (22.9%)	従業員の確保難 (12.6%)	生産設備の不足・老朽化 (12.1%)	製品ニーズの変化への対応 (11.9%)	原材料価格の上昇 (8.6%)
前期 (4-6月期)	需要の停滞 (24.2%)	製品ニーズの変化への対応 (12.1%)	生産設備の不足・老朽化 (11.2%)	従業員の確保難 (10.8%)	製品(加工)単価の低下・上昇難 (8.9%)

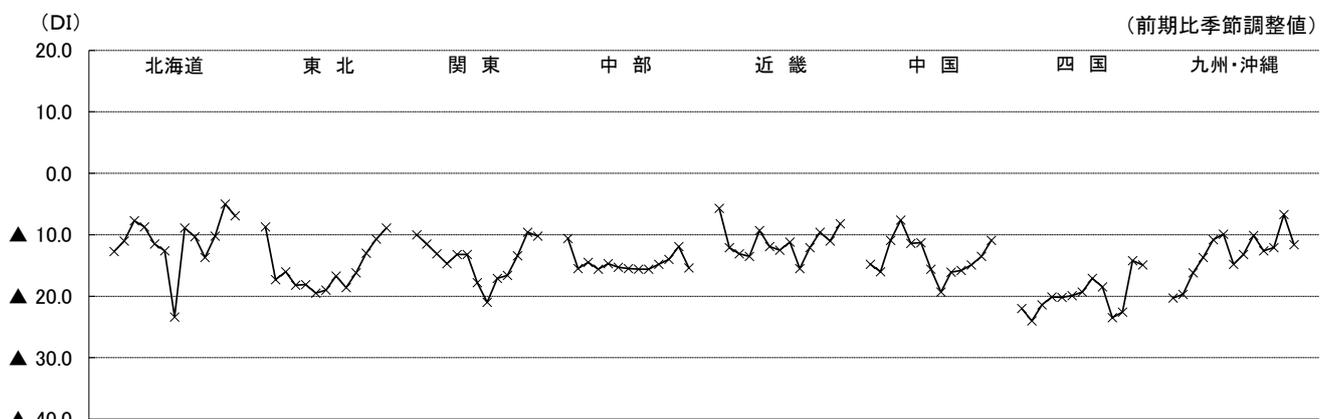
4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、近畿、中国、東北の3地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄、中部、北海道、四国、関東の5地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

製造業

(2014年7-9月期～2017年7-9月期の動き)



(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

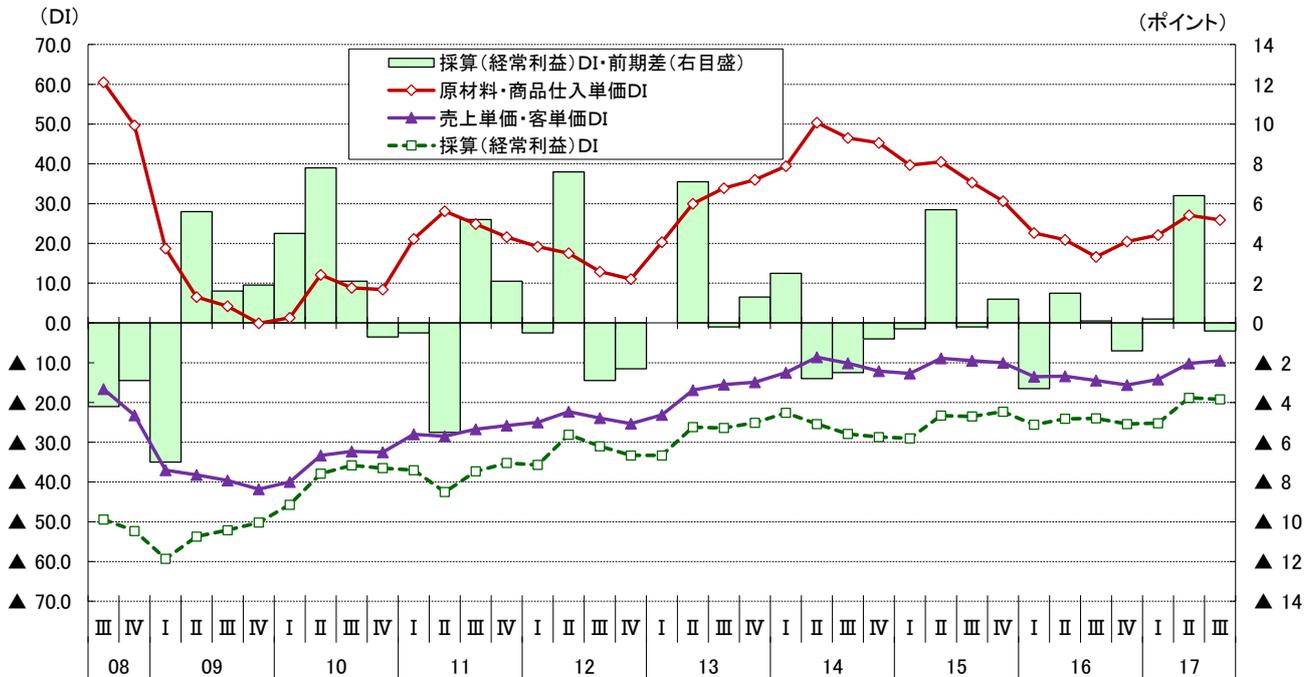
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合 - 前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



〔調査対象企業のコメント〕

- ・ 不漁による水揚げの減少及び仕入単価高騰のため、販売する製品の確保が困難である。売上に対し利益がでない。販売価格も値上げせざるを得ず、顧客離れも心配される。〔食料品 青森〕
- ・ 今期は例年に比べて7月の中旬過ぎまでは晴天続きで暑い日が続き、夏物に期待したが、7月後半から連日の雨で夏物は大変厳しい商売だった。長雨による農作物への影響による秋以降の消費動向が心配。〔小売業 宮城〕
- ・ 受注が一部の設備の生産に集中しており、生産設備が不足している。またそれに伴い残業や特別出勤の人材確保が困難な状況である。〔化学 富山〕
- ・ 請負単価の低い一日仕事や補修の契約が多く、大きな契約につながらない。天候不順で作業した工程が無駄になることもあり、売上増につながらない。〔建設業 愛知〕
- ・ 受注としては、順調に推移しており、引合いも活発ではあるが、熟練技術者の確保が難しく、人手不足により、納期対応が厳しい状況にある為、機会損失も増えている。また、国際情勢の不安から、積極的な投資が出来ない。〔輸送用機械器具 三重〕
- ・ 地域の開発で活性化を感じる。Web広告やSNSを使った告知により新規顧客の獲得が出来た。〔対個人サービス業 兵庫〕
- ・ 7月の豪雨の影響より客数が大幅に減少した。秋の紅葉シーズンに盛り返すよう頑張りたい。〔宿泊業 福岡〕
- ・ 仕入先（メーカー）サイドの値上げが、販売先に転嫁できてないことが気かりではあるが、販売数量は順調に推移している。総じて好況といえる。〔卸売業 鹿児島〕

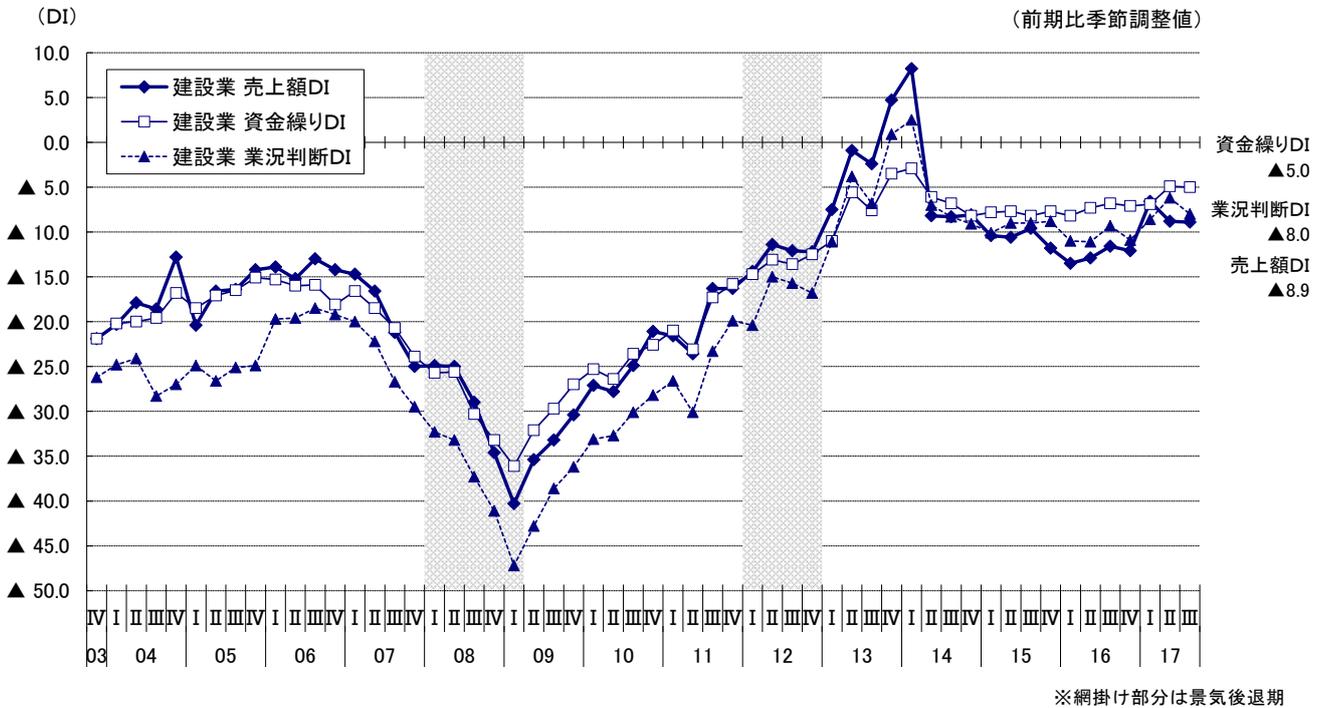
〔調査要領〕

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,500を集計したもの。）

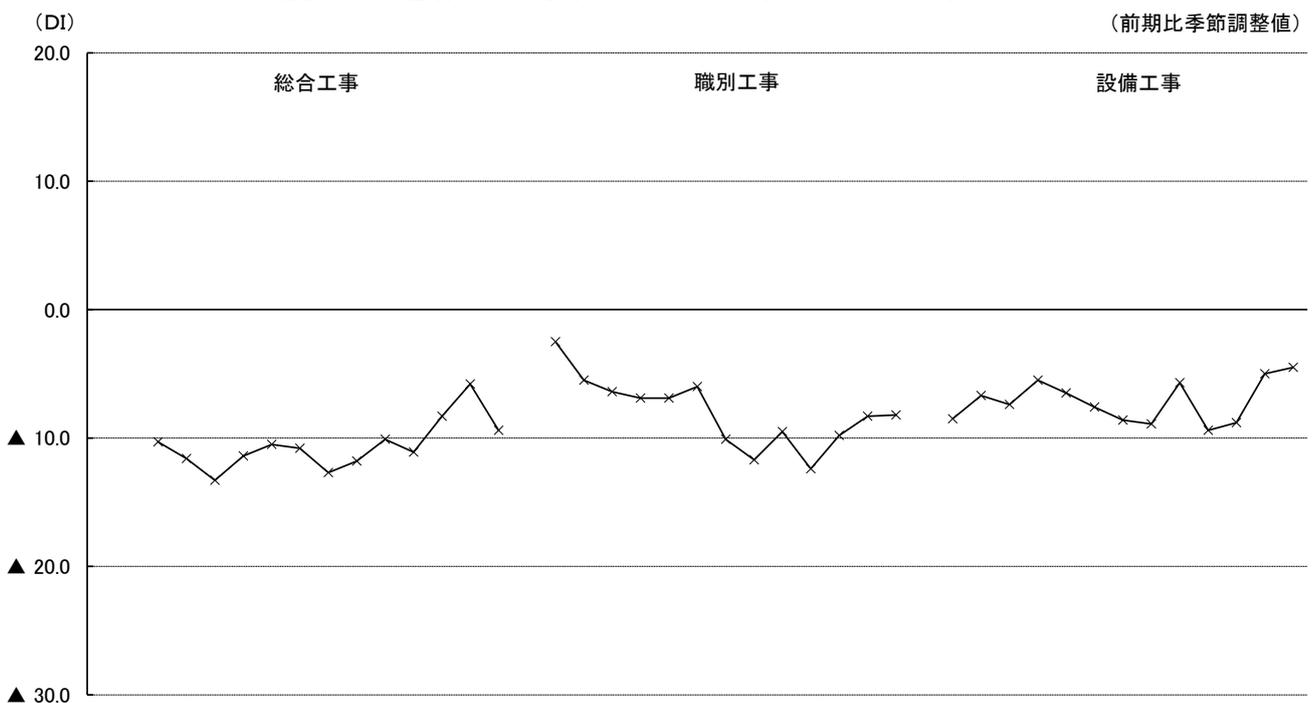
1. 建設業の動向

建設業の業況判断DIは、▲8.0（前期差1.8ポイント減）とマイナス幅が拡大した。また、売上額DIは▲8.9（前期差0.1ポイント減）、資金繰りDIは▲5.0（前期差0.1ポイント減）といずれもマイナス幅が拡大した。

業種別に見ると、設備工事で▲4.5（前期差0.5ポイント増）、職別工事で▲8.2（前期差0.1ポイント増）とマイナス幅が縮小し、総合工事で▲9.4（前期差3.6ポイント減）とマイナス幅が拡大した。



建設業 業種別 業況判断DI（2014年7-9月期～2017年7-9月期）



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、建設業全体で20.1%（前期差0.0ポイント）と横ばいとなった。

（単位：％）

	28年 7-9月期	28年 10-12月期	29年 1-3月期	29年 4-6月期	29年 7-9月期
総合工事	21.2	19.5	20.6	22.5	22.4
職別工事	13.6	12.5	12.0	14.1	14.2
設備工事	21.8	17.8	19.2	20.9	21.1
建設業計	19.5	17.5	18.2	20.1	20.1

3. 建設業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回2位の「従業員の確保難」が1位にあげられており、前回1位の「官公需要の停滞」が2位に、前回5位の「熟練技術者の確保難」が4位に、前回4位の「請負単価の低下・上昇難」が5位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	従業員の確保難 (19.4%)	官公需要の停滞 (17.6%)	民間需要の停滞 (12.4%)	熟練技術者の確保難 (10.1%)	請負単価の低下・ 上昇難 (9.8%)
前期 (4-6月期)	官公需要の停滞 (17.9%)	従業員の確保難 (15.5%)	民間需要の停滞 (12.5%)	請負単価の低下・ 上昇難 (10.6%)	熟練技術者の確保難 (10.6%)

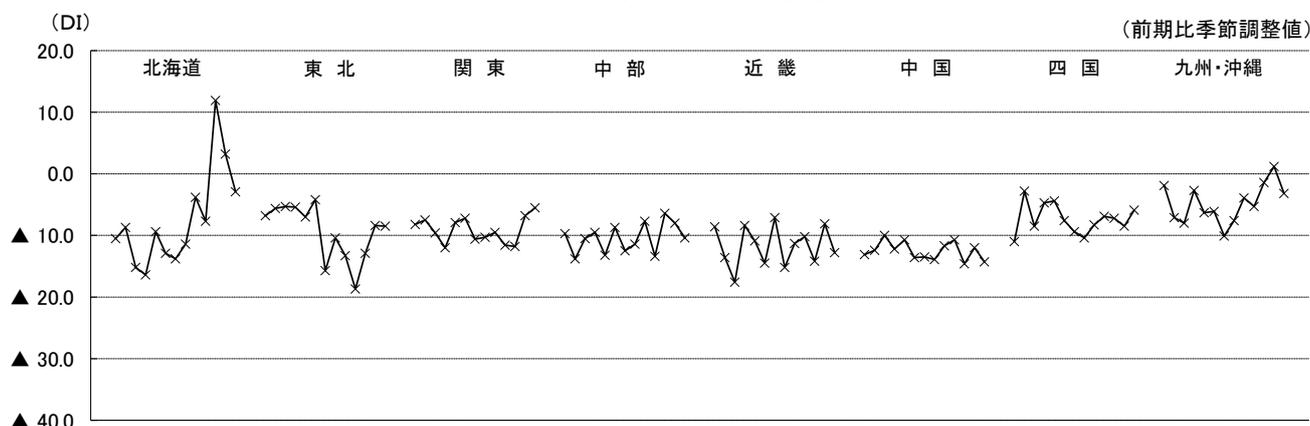
4. 建設業の地域別業況判断D I

地域別に見ると、四国、関東の2地域でマイナス幅が縮小し、北海道、九州・沖縄の2地域でプラスからマイナスに転じ、近畿、中部、中国、東北の4地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断D Iの推移

建設業

（2014年7-9月期～2017年7-9月期の動き）



（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

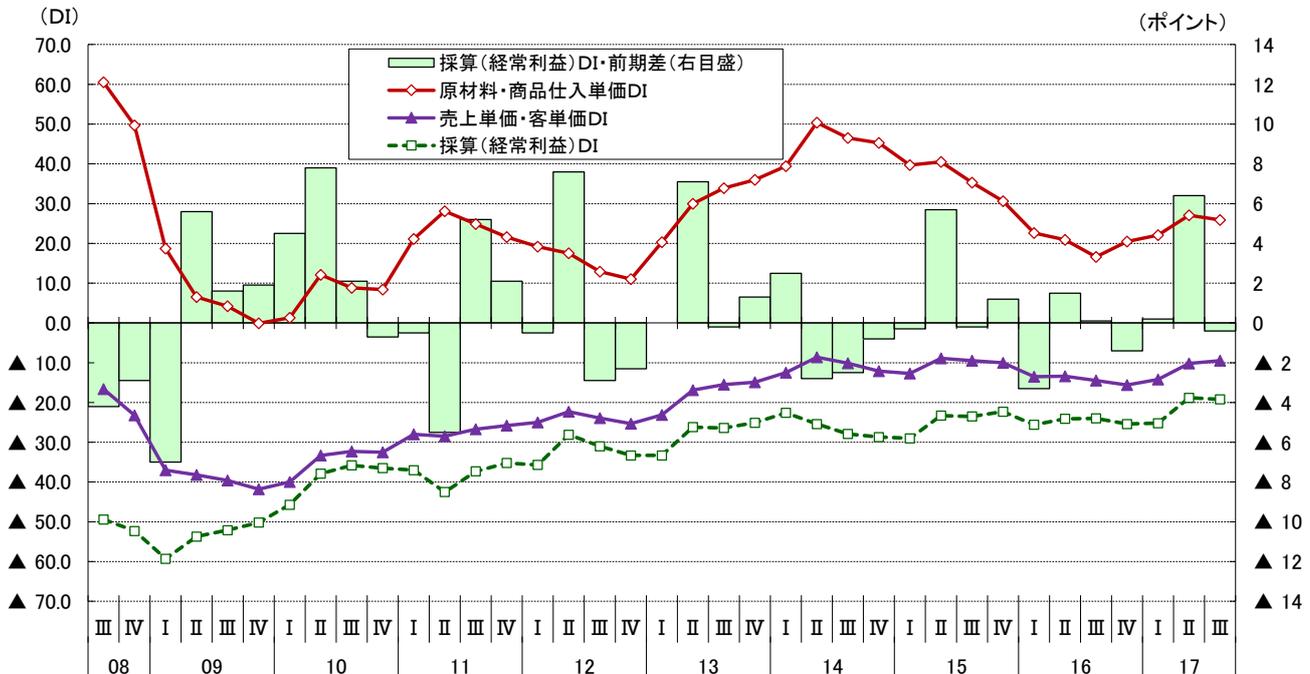
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



【調査対象企業のコメント】

- ・ 不漁による水揚げの減少及び仕入単価高騰のため、販売する製品の確保が困難である。売上に対し利益がでない。販売価格も値上げせざるを得ず、顧客離れも心配される。〔食料品 青森〕
- ・ 今期は例年に比べて7月の中旬過ぎまでは晴天続きで暑い日が続き、夏物に期待したが、7月後半から連日の雨で夏物は大変厳しい商売だった。長雨による農作物への影響による秋以降の消費動向が心配。〔小売業 宮城〕
- ・ 受注が一部の設備の生産に集中しており、生産設備が不足している。またそれに伴い残業や特別出勤の人材確保が困難な状況である。〔化学 富山〕
- ・ 請負単価の低い一日仕事や補修の契約が多く、大きな契約につながらない。天候不順で作業した工程が無駄になることもあり、売上増につながらない。〔建設業 愛知〕
- ・ 受注としては、順調に推移しており、引合いも活発ではあるが、熟練技術者の確保が難しく、人手不足により、納期対応が厳しい状況にある為、機会損失も増えている。また、国際情勢の不安から、積極的な投資が出来ない。〔輸送用機械器具 三重〕
- ・ 地域の開発で活性化を感じる。Web広告やSNSを使った告知により新規顧客の獲得が出来た。〔対個人サービス業 兵庫〕
- ・ 7月の豪雨の影響より客数が大幅に減少した。秋の紅葉シーズンに盛り返すよう頑張りたい。〔宿泊業 福岡〕
- ・ 仕入先（メーカー）サイドの値上げが、販売先に転嫁できてないことが気かりではあるが、販売数量は順調に推移している。総じて好況といえる。〔卸売業 鹿児島〕

【調査要領】

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、建設業の有効回答数2,308を集計したもの。）

平成29年9月

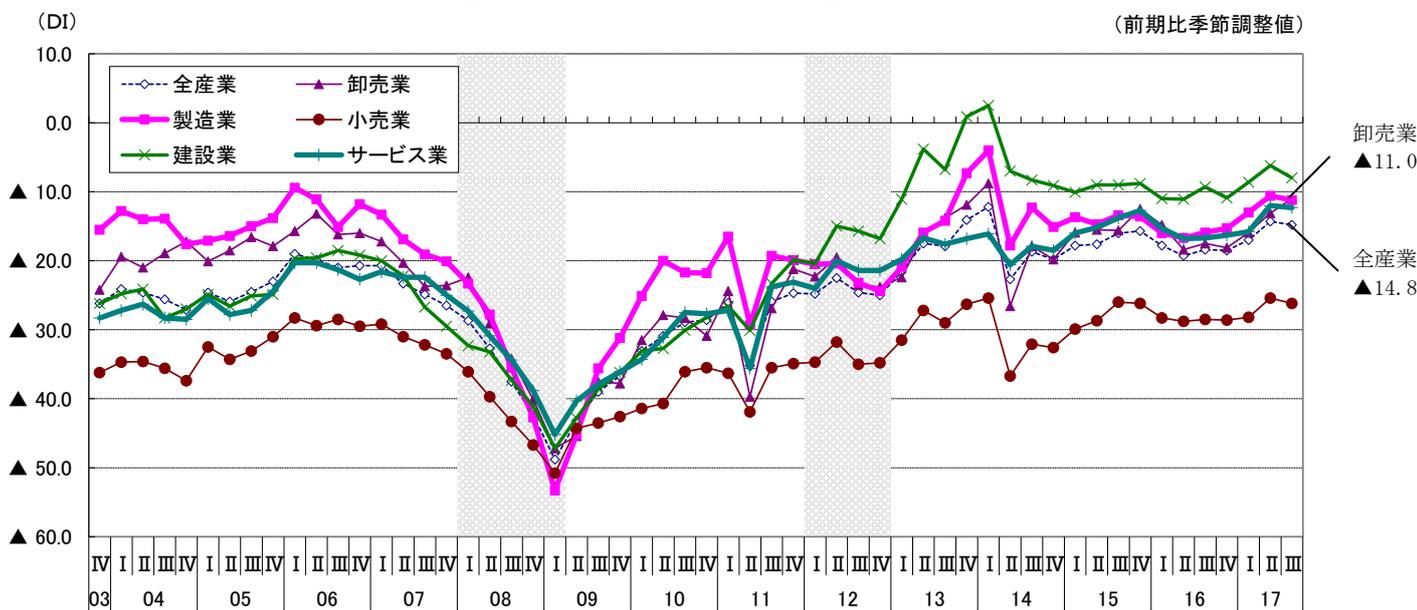
第149回 中小企業景況調査報告書 (2017年7-9月期) 〈卸売業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合-「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)
URL:<http://www.smrj.go.jp/keiei/chosa/keikyo/>

中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりにやや低下した。(▲14.3→▲14.8)

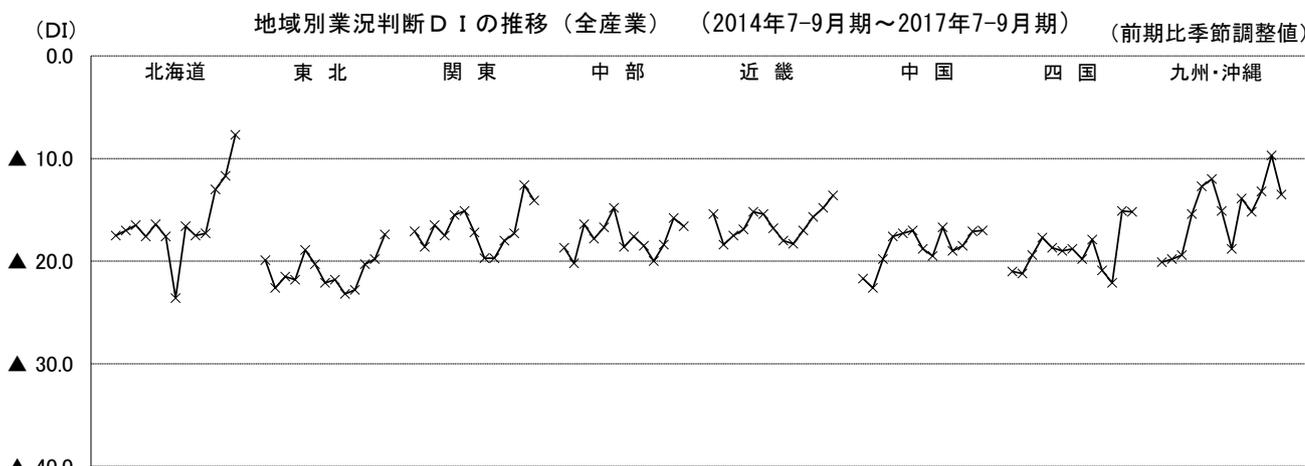
中小企業の業況判断DIの推移(産業別)



※網掛け部分は景気後退期

〈地域の業況〉

北海道、東北など4地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄など4地域でマイナス幅が拡大した。

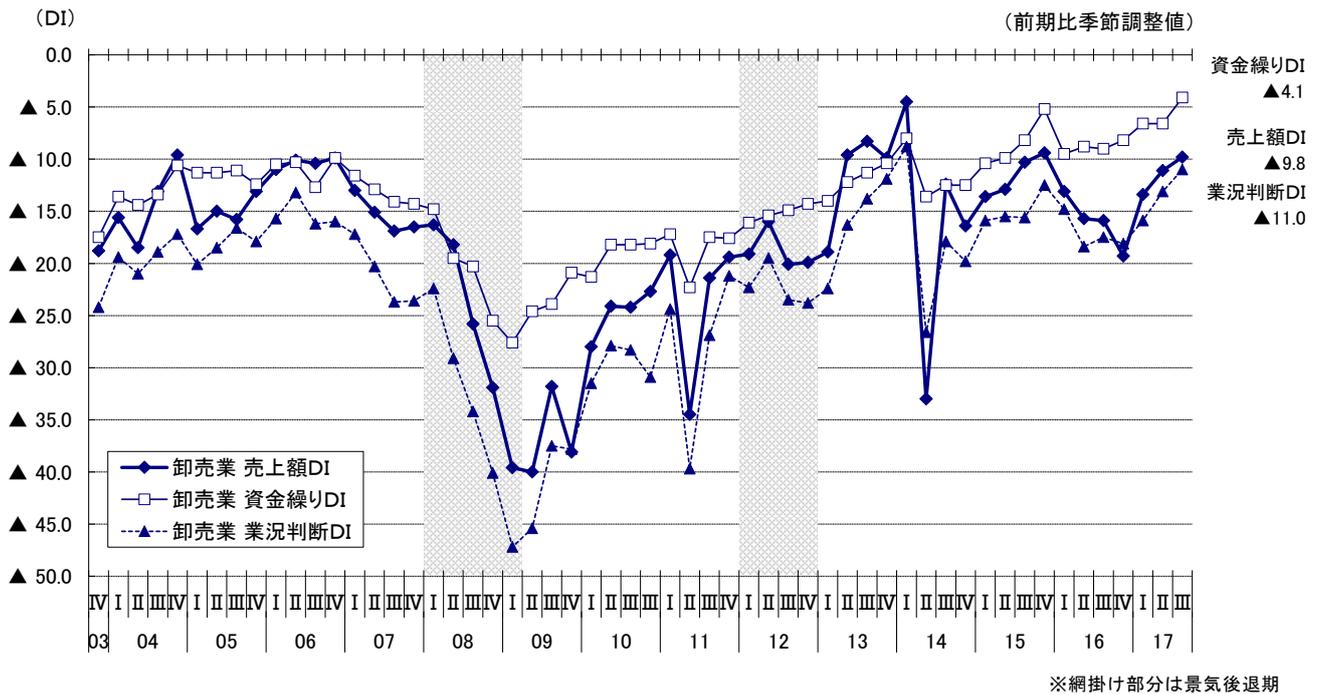


(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

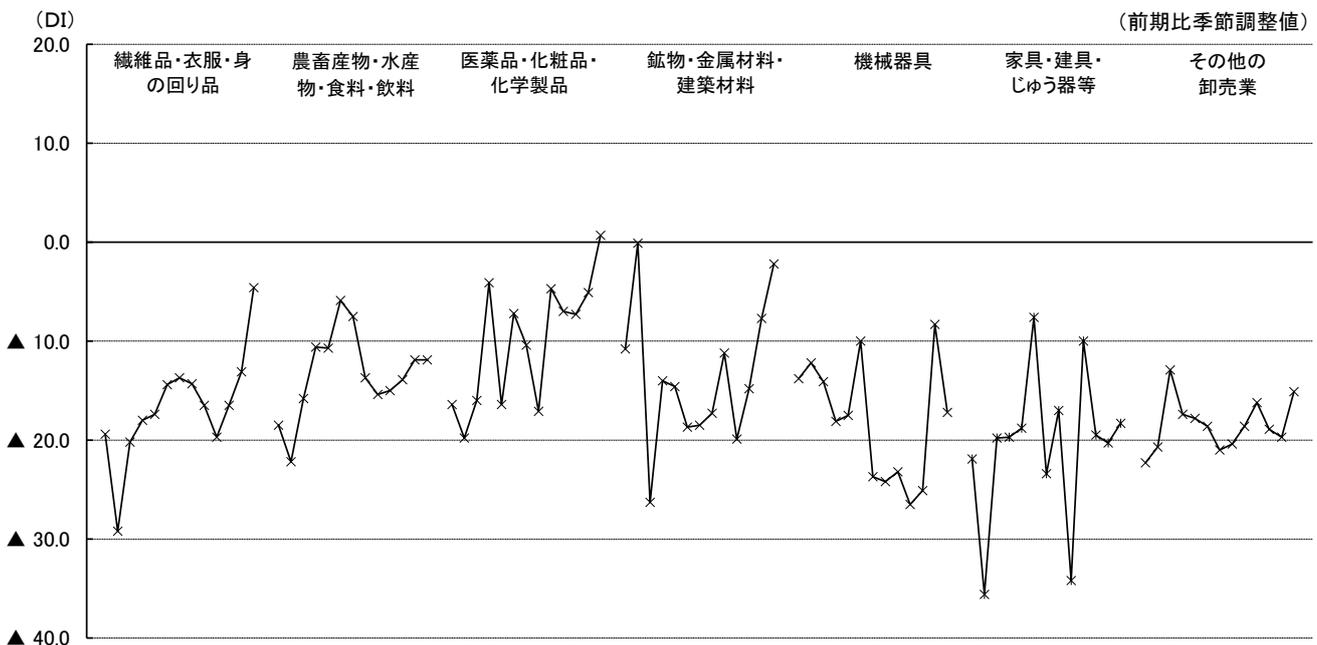
1. 卸売業の動向

卸売業の業況判断DIは、▲11.0(前期差2.1ポイント増)となり、マイナス幅が縮小した。また、売上額DIは▲9.8(前期差1.3ポイント増)、資金繰りDIは▲4.1(前期差2.5ポイント増)といずれもマイナス幅が縮小した。

業種別に見ると、医薬品・化粧品・化学製品で0.7(前期差5.8ポイント増)とマイナスからプラスに転じ、繊維品・衣服・身の回り品で▲4.6(前期差8.5ポイント増)、鉱物・金属材料・建築材料で▲2.2(前期差5.5ポイント増)、その他の卸売業で▲15.1(前期差4.6ポイント増)、家具・建具・じゅう器等で▲18.3(前期差2.0ポイント増)と4業種でマイナス幅が縮小し、農畜産物・水産物・食料・飲料で▲11.9(前期差0.0ポイント)と横ばいとなり、機械器具で▲17.2(前期差8.9ポイント減)とマイナス幅が拡大した。



卸売業 業種別 業況判断DI (2014年7-9月期~2017年7-9月期)



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、卸売業全体で18.6%（前期差1.9ポイント減）と減少した。

（単位：％）

	28年 7-9月期	28年 10-12月期	29年 1-3月期	29年 4-6月期	29年 7-9月期
繊維品・衣服・身の回り品	18.3	16.7	17.7	13.4	17.6
農畜産物・水産物・食料・飲料	19.6	22.0	18.3	23.6	17.4
医薬品・化粧品・化学製品	15.0	16.1	22.2	29.0	17.2
鉱物・金属材料・建築材料	20.3	24.0	21.6	26.9	22.1
機械器具	21.1	19.0	22.4	16.1	20.0
家具・建具・じゅう器等	15.1	10.9	17.0	16.0	15.7
その他の卸売業	18.1	17.2	19.1	19.6	18.8
卸売業計	19.0	19.1	19.6	20.5	18.6

3. 卸売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「需要の停滞」が1位にあげられており、前回3位の「従業員の確保難」が2位に、前回2位の「仕入単価の上昇」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	需要の停滞 (32.9%)	従業員の確保難 (10.0%)	仕入単価の上昇 (9.2%)	大企業の進出による競争の激化 (8.4%)	販売単価の低下・上昇難 (8.0%)
前期 (4-6月期)	需要の停滞 (32.5%)	仕入単価の上昇 (9.2%)	従業員の確保難 (9.2%)	大企業の進出による競争の激化 (9.0%)	販売単価の低下・上昇難 (8.0%)

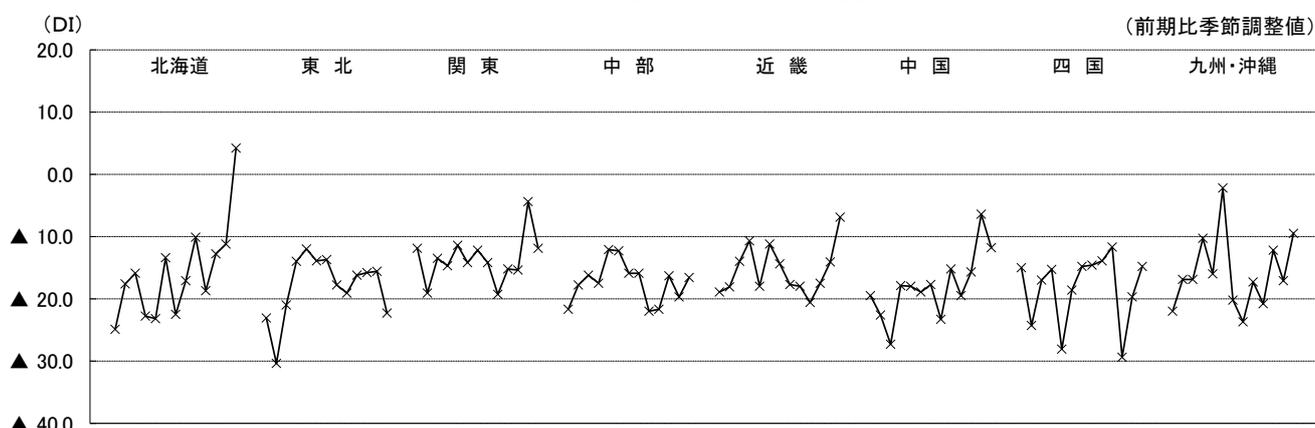
4. 卸売業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、北海道でマイナスからプラスに転じ、九州・沖縄、近畿、四国、中部の4地域でマイナス幅が縮小し、関東、東北、中国の3地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

卸売業

（2014年7-9月期～2017年7-9月期の動き）



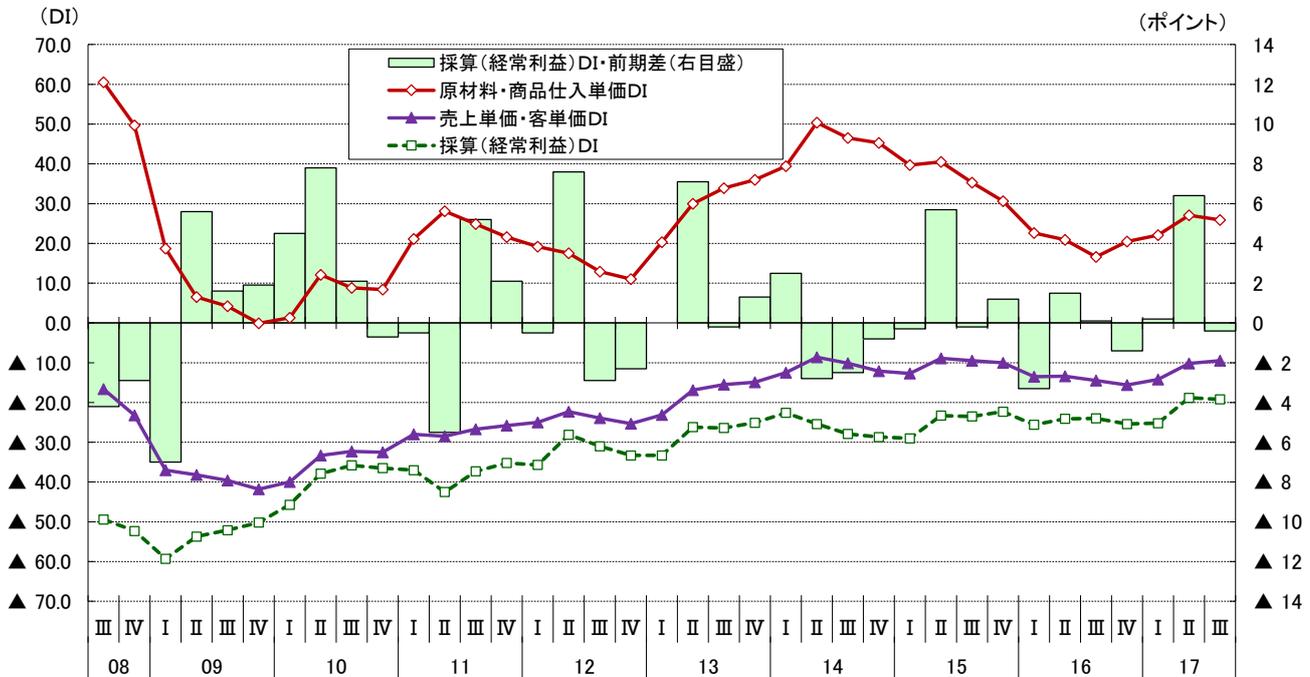
- (注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
 2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
 3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



〔調査対象企業のコメント〕

- ・ 不漁による水揚げの減少及び仕入単価高騰のため、販売する製品の確保が困難である。売上に対し利益がでない。販売価格も値上げせざるを得ず、顧客離れも心配される。〔食料品 青森〕
- ・ 今期は例年に比べて7月の中旬過ぎまでは晴天続きで暑い日が続き、夏物に期待したが、7月後半から連日の雨で夏物は大変厳しい商売だった。長雨による農作物への影響による秋以降の消費動向が心配。〔小売業 宮城〕
- ・ 受注が一部の設備の生産に集中しており、生産設備が不足している。またそれに伴い残業や特別出勤の人材確保が困難な状況である。〔化学 富山〕
- ・ 請負単価の低い一日仕事や補修の契約が多く、大きな契約につながらない。天候不順で作業した工程が無駄になることもあり、売上増につながらない。〔建設業 愛知〕
- ・ 受注としては、順調に推移しており、引合いも活発ではあるが、熟練技術者の確保が難しく、人手不足により、納期対応が厳しい状況にある為、機会損失も増えている。また、国際情勢の不安から、積極的な投資が出来ない。〔輸送用機械器具 三重〕
- ・ 地域の開発で活性化を感じる。Web広告やSNSを使った告知により新規顧客の獲得が出来た。〔対個人サービス業 兵庫〕
- ・ 7月の豪雨の影響より客数が大幅に減少した。秋の紅葉シーズンに盛り返すよう頑張りたい。〔宿泊業 福岡〕
- ・ 仕入先（メーカー）サイドの値上げが、販売先に転嫁できてないことが気かりではあるが、販売数量は順調に推移している。総じて好況といえる。〔卸売業 鹿児島〕

〔調査要領〕

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、卸売業の有効回答数1,121を集計したもの。）

平成29年9月

第149回 中小企業景況調査報告書 (2017年7-9月期) 〈小売業編〉

※DIとは…

「好転」と回答した企業の割合-「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課

〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1

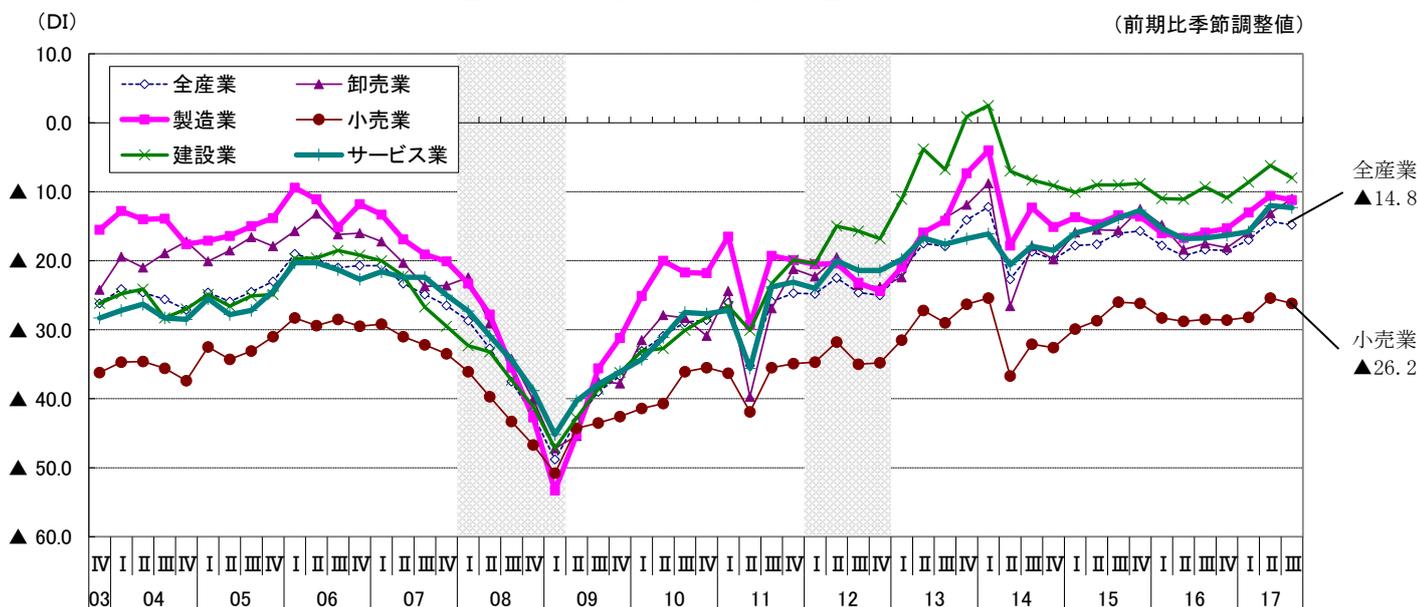
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)

URL:<http://www.smrj.go.jp/keiei/chosa/keikyo/>

中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。

前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりにやや低下した。(▲14.3→▲14.8)

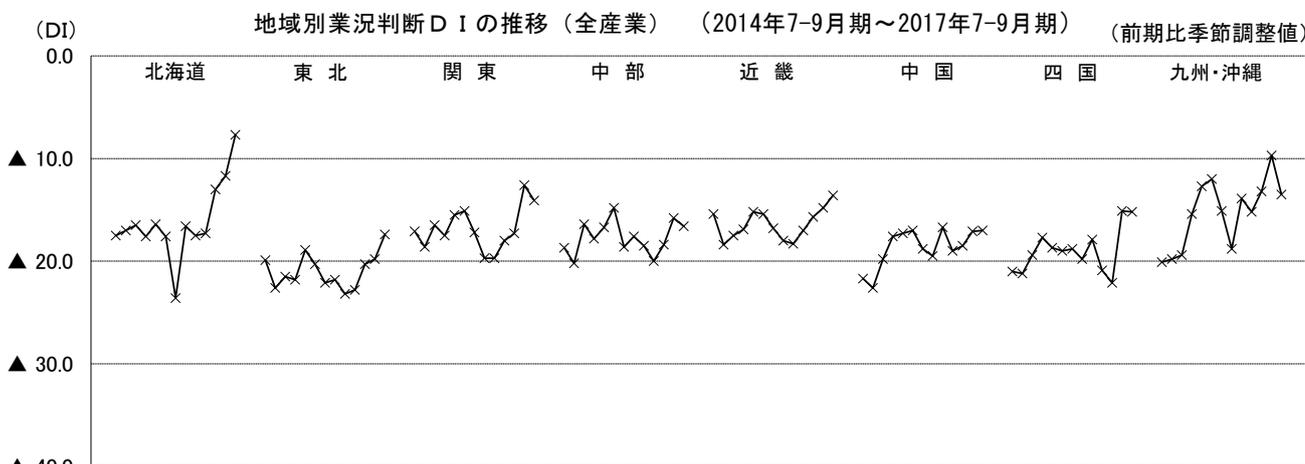
中小企業の業況判断DIの推移(産業別)



※網掛け部分は景気後退期

〈地域の業況〉

北海道、東北など4地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄など4地域でマイナス幅が拡大した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

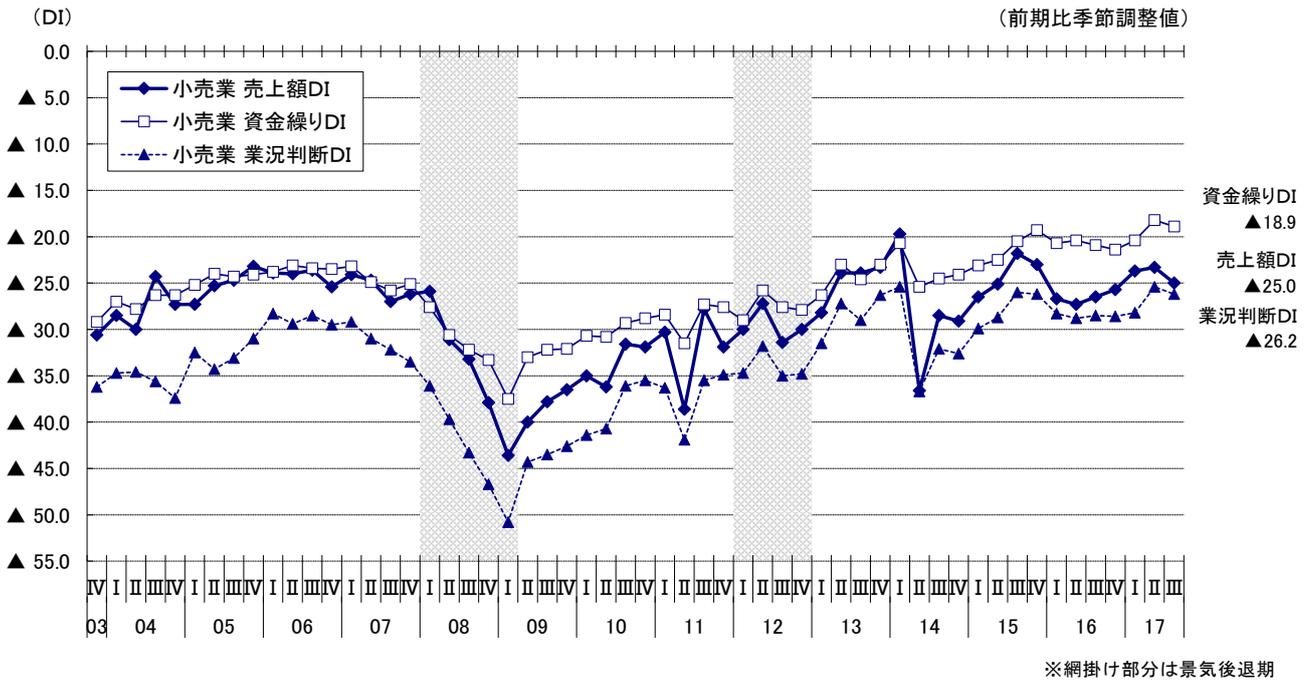
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

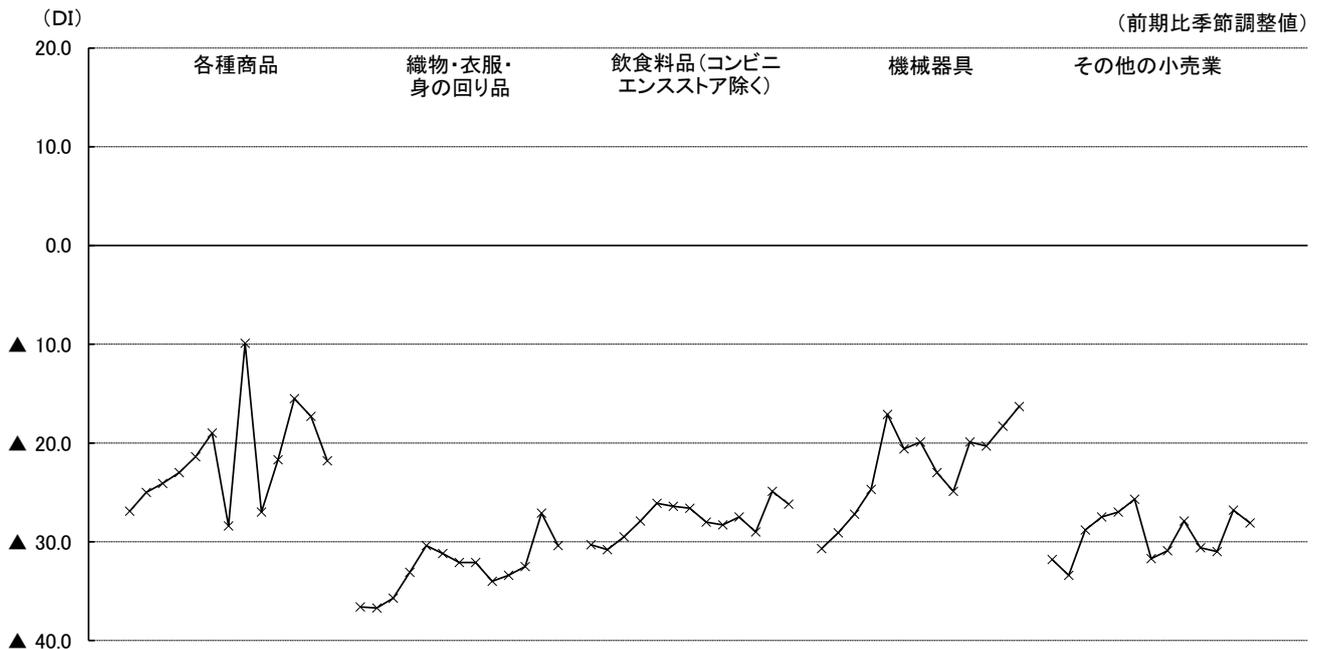
1. 小売業の動向

小売業の業況判断DIは、▲26.2（前期差0.8ポイント減）とマイナス幅が拡大した。また、売上額DIは▲25.0（前期差1.7ポイント減）、資金繰りDIは▲18.9（前期差0.7ポイント減）といずれもマイナス幅が拡大した。

業種別に見ると、機械器具で▲16.3（前期差2.0ポイント増）とマイナス幅が縮小し、各種商品で▲21.8（前期差4.5ポイント減）、織物・衣服・身の回り品で▲30.4（前期差3.3ポイント減）、飲食料品（コンビニエンスストア除く）で▲26.2（前期差1.3ポイント減）、その他の小売業で▲28.1（前期差1.3ポイント減）と4業種でマイナス幅が拡大した。



小売業 業種別 業況判断DI（2014年7-9月期～2017年7-9月期）



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、小売業全体で12.0%（前期差0.4ポイント増）と増加した。
（単位：％）

	28年 7-9月期	28年 10-12月期	29年 1-3月期	29年 4-6月期	29年 7-9月期
各種商品	15.4	15.3	10.8	13.9	15.0
織物・衣服・身の回り品	8.2	8.4	6.9	9.0	9.1
飲食料品 （コンビニエンスストア除く）	12.6	12.0	9.5	11.8	12.6
機械器具	10.2	10.5	9.8	14.4	12.7
その他の小売業	13.6	12.6	11.8	12.0	12.6
小売業計	11.8	11.4	9.8	11.6	12.0

3. 小売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「大・中型店の進出による競争の激化」が1位にあげられており、前回6位の「仕入単価の上昇」が5位となった。それ以外は問題点の順位に変動は見られなかった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	大・中型店の進出 による競争の激化 (18.4%)	需要の停滞 (17.7%)	購買力の他地域へ の流出 (16.1%)	消費者ニーズの変 化への対応 (15.1%)	仕入単価の上昇 (5.3%)
前期 (4-6月期)	大・中型店の進出 による競争の激化 (18.8%)	需要の停滞 (17.9%)	購買力の他地域へ の流出 (16.2%)	消費者ニーズの変 化への対応 (15.7%)	同業者の進出 (5.0%)

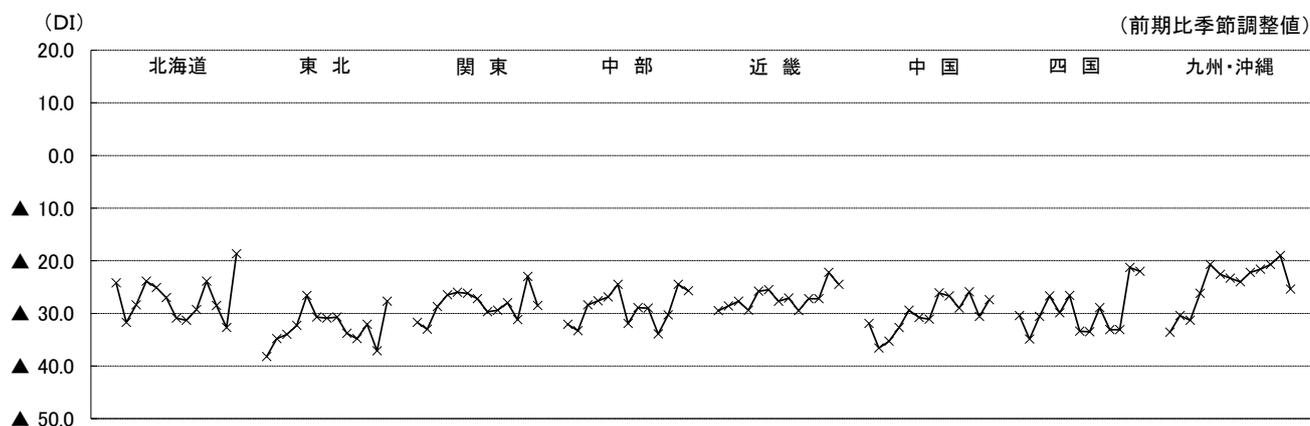
4. 小売業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、北海道、東北、中国の3地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄、関東、近畿、中部、四国の5地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

小売業

（2014年7-9月期～2017年7-9月期の動き）



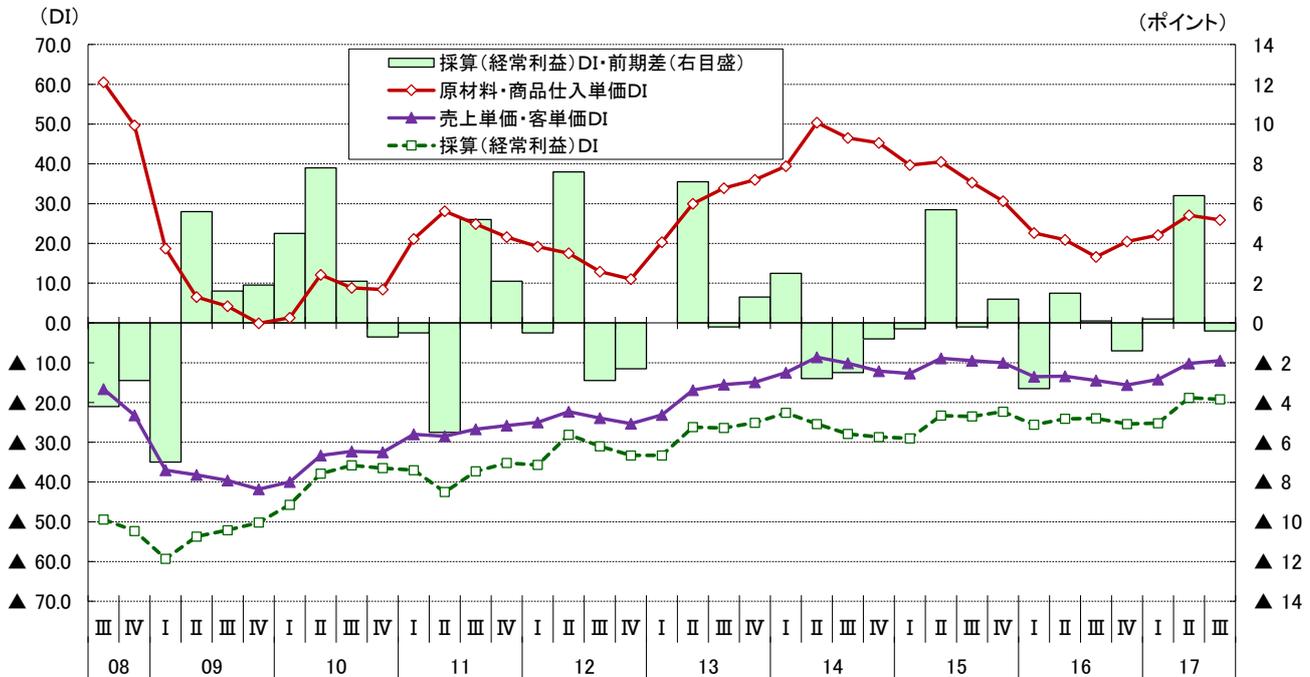
（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



〔調査対象企業のコメント〕

- ・ 不漁による水揚げの減少及び仕入単価高騰のため、販売する製品の確保が困難である。売上に対し利益がでない。販売価格も値上げせざるを得ず、顧客離れも心配される。〔食料品 青森〕
- ・ 今期は例年に比べて7月の中旬過ぎまでは晴天続きで暑い日が続き、夏物に期待したが、7月後半から連日の雨で夏物は大変厳しい商売だった。長雨による農作物への影響による秋以降の消費動向が心配。〔小売業 宮城〕
- ・ 受注が一部の設備の生産に集中しており、生産設備が不足している。またそれに伴い残業や特別出勤の人材確保が困難な状況である。〔化学 富山〕
- ・ 請負単価の低い一日仕事や補修の契約が多く、大きな契約につながらない。天候不順で作業した工程が無駄になることもあり、売上増につながらない。〔建設業 愛知〕
- ・ 受注としては、順調に推移しており、引合いも活発ではあるが、熟練技術者の確保が難しく、人手不足により、納期対応が厳しい状況にある為、機会損失も増えている。また、国際情勢の不安から、積極的な投資が出来ない。〔輸送用機械器具 三重〕
- ・ 地域の開発で活性化を感じる。Web広告やSNSを使った告知により新規顧客の獲得が出来た。〔対個人サービス業 兵庫〕
- ・ 7月の豪雨の影響より客数が大幅に減少した。秋の紅葉シーズンに盛り返すよう頑張りたい。〔宿泊業 福岡〕
- ・ 仕入先（メーカー）サイドの値上げが、販売先に転嫁できてないことが気かりではあるが、販売数量は順調に推移している。総じて好況といえる。〔卸売業 鹿児島〕

〔調査要領〕

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、小売業の有効回答数4,491を集計したもの。）

平成29年9月

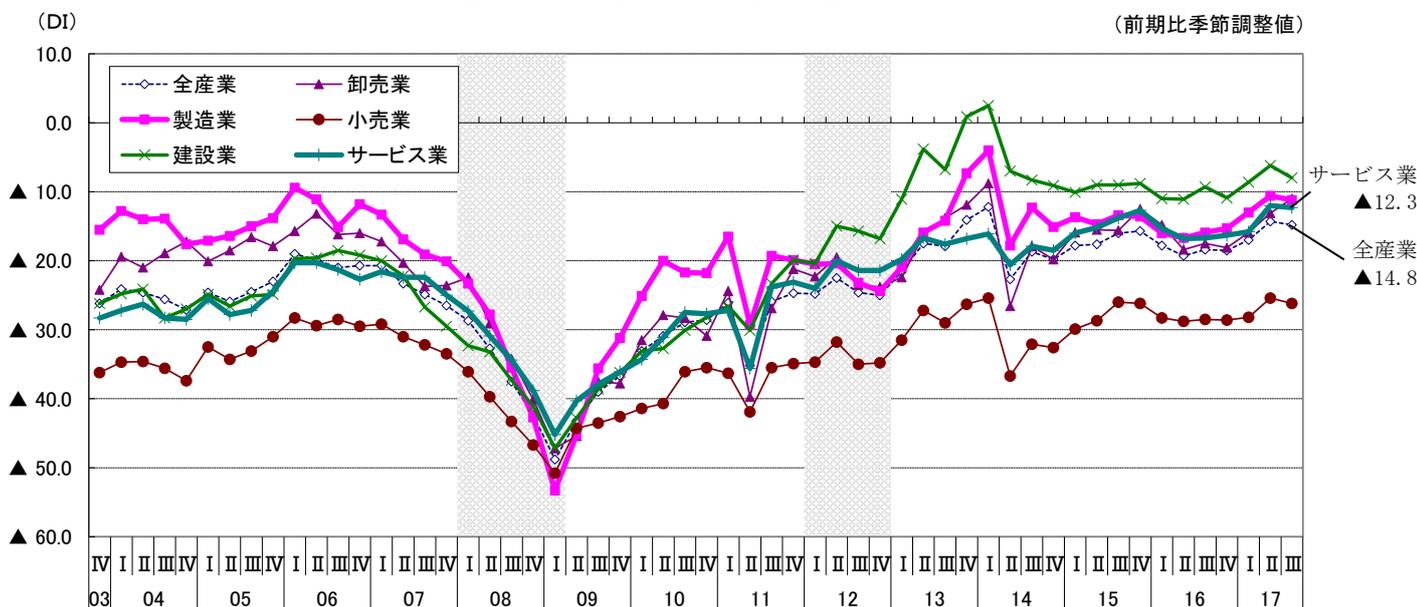
第149回 中小企業景況調査報告書 (2017年7-9月期) 〈サービス業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合-「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)
URL:<http://www.smrj.go.jp/keiei/chosa/keikyo/>

中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりにやや低下した。(▲14.3→▲14.8)

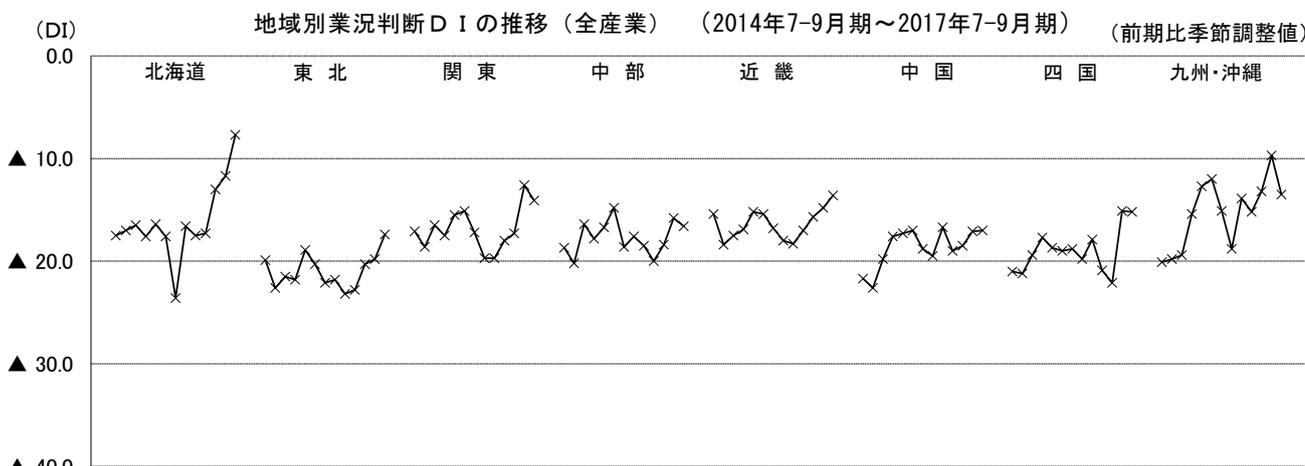
中小企業の業況判断DIの推移(産業別)



※網掛け部分は景気後退期

〈地域の業況〉

北海道、東北など4地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄など4地域でマイナス幅が拡大した。

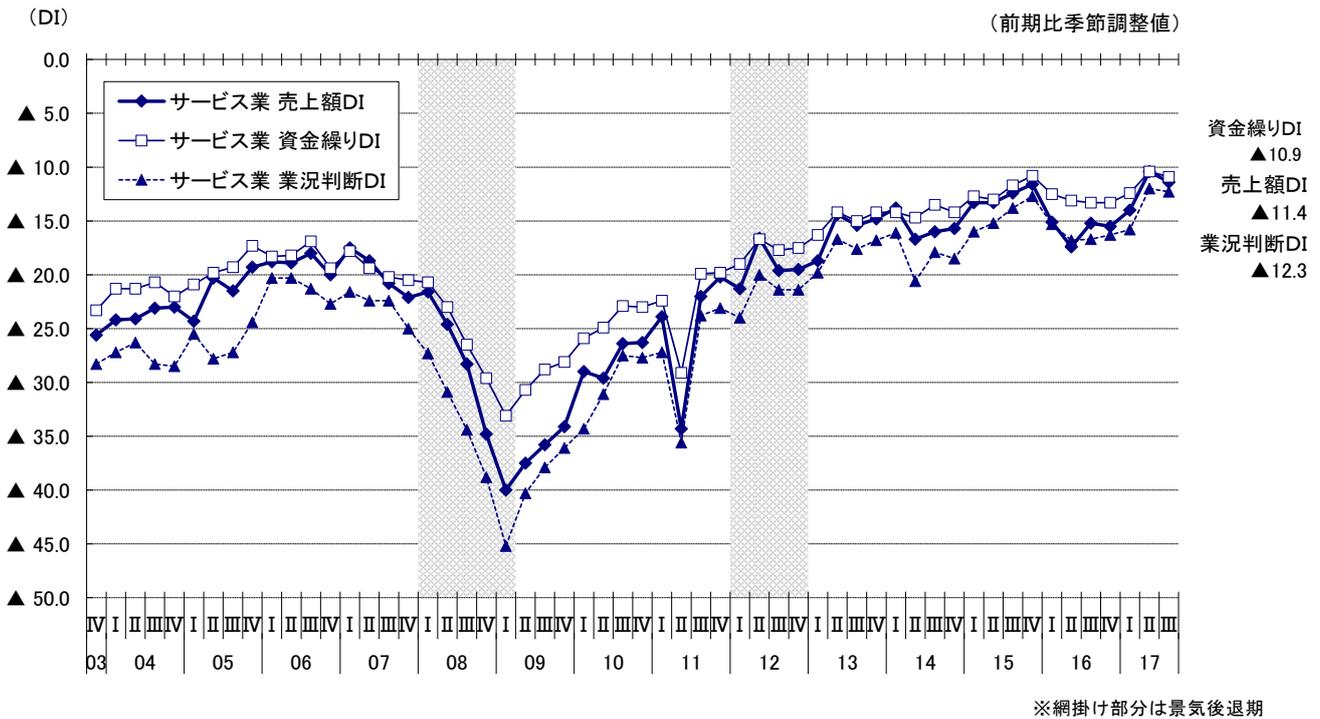


(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

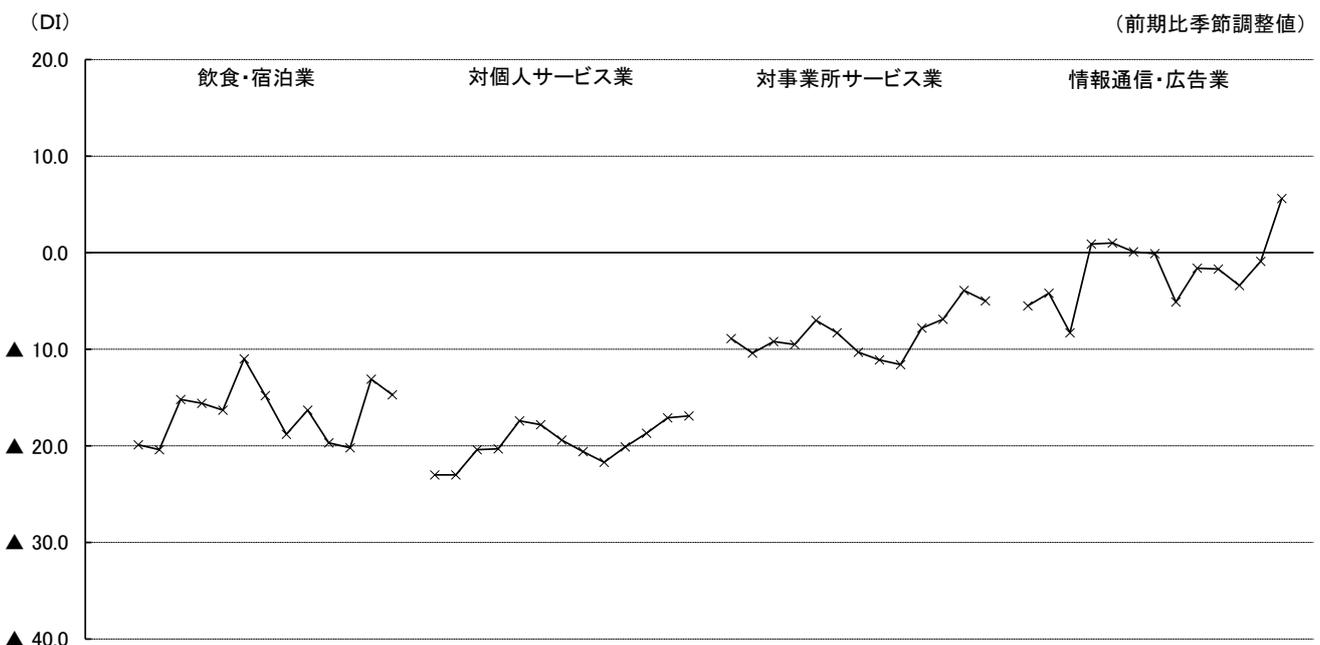
1. サービス業の動向

サービス業の業況判断DIは、▲12.3（前期差0.3ポイント減）となり、マイナス幅が拡大した。また、売上額DIは▲11.4（前期差1.0ポイント減）、資金繰りDIは▲10.9（前期比0.5ポイント減）といずれもマイナス幅が拡大した。

業種別に見ると、情報通信・広告業で5.6（前期差6.5ポイント増）とマイナスからプラスに転じ、対個人サービス業で▲16.9（前期差0.2ポイント増）とマイナス幅が縮小し、飲食・宿泊業で▲14.7（前期差1.6ポイント減）、対事業所サービス業で▲5.0（前期差1.1ポイント減）と2業種でマイナス幅が拡大した。



サービス業 業種別 業況判断DI（2014年7-9月期～2017年7-9月期）



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、サービス業全体で18.2%（前期差1.7ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	28年 7-9月期	28年 10-12月期	29年 1-3月期	29年 4-6月期	29年 7-9月期
飲食・宿泊業	19.7	18.7	14.7	18.2	19.5
対個人サービス業	12.9	12.7	10.5	12.4	13.4
対事業所サービス業	21.6	20.4	20.6	21.9	24.5
情報通信・広告業	21.4	20.3	22.7	19.0	24.8
サービス業計	17.2	16.5	14.6	16.5	18.2

3. サービス業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「利用者ニーズの変化への対応」が1位にあげられており、前回6位の「新規参入業者の増加」が5位となった。それ以外は問題点の順位に変動は見られなかった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	利用者ニーズの変化への対応 (19.2%)	需要の停滞 (15.2%)	従業員の確保難 (14.3%)	店舗施設の狭隘・老朽化 (9.9%)	新規参入業者の増加 (7.3%)
前期 (4-6月期)	利用者ニーズの変化への対応 (19.0%)	需要の停滞 (16.1%)	従業員の確保難 (13.2%)	店舗施設の狭隘・老朽化 (9.6%)	大企業の進出による競争の激化 (7.1%)

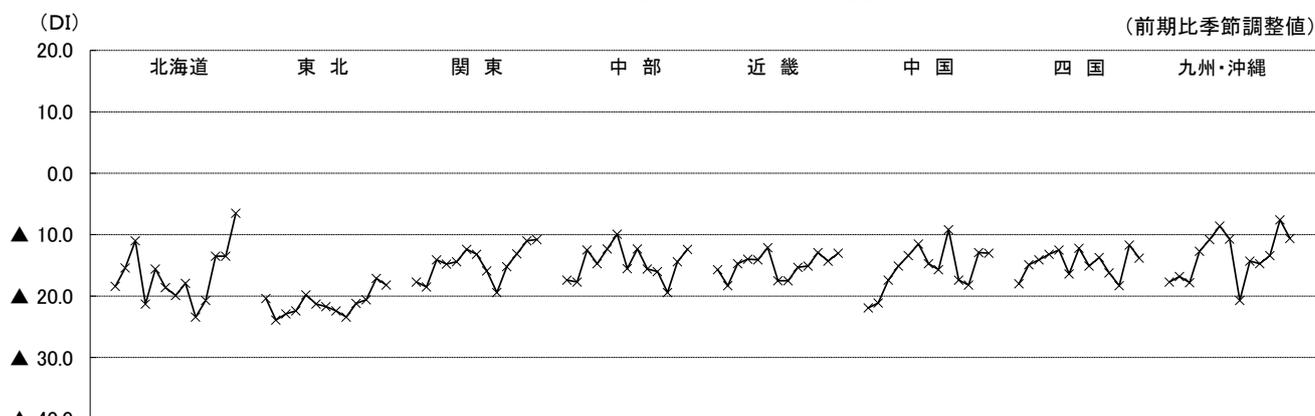
4. サービス業の地域別業況判断D I

地域別に見ると、北海道、中部、近畿、関東の4地域でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄、四国、東北、中国の4地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断D Iの推移

サービス業

(2014年7-9月期～2017年7-9月期の動き)



(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

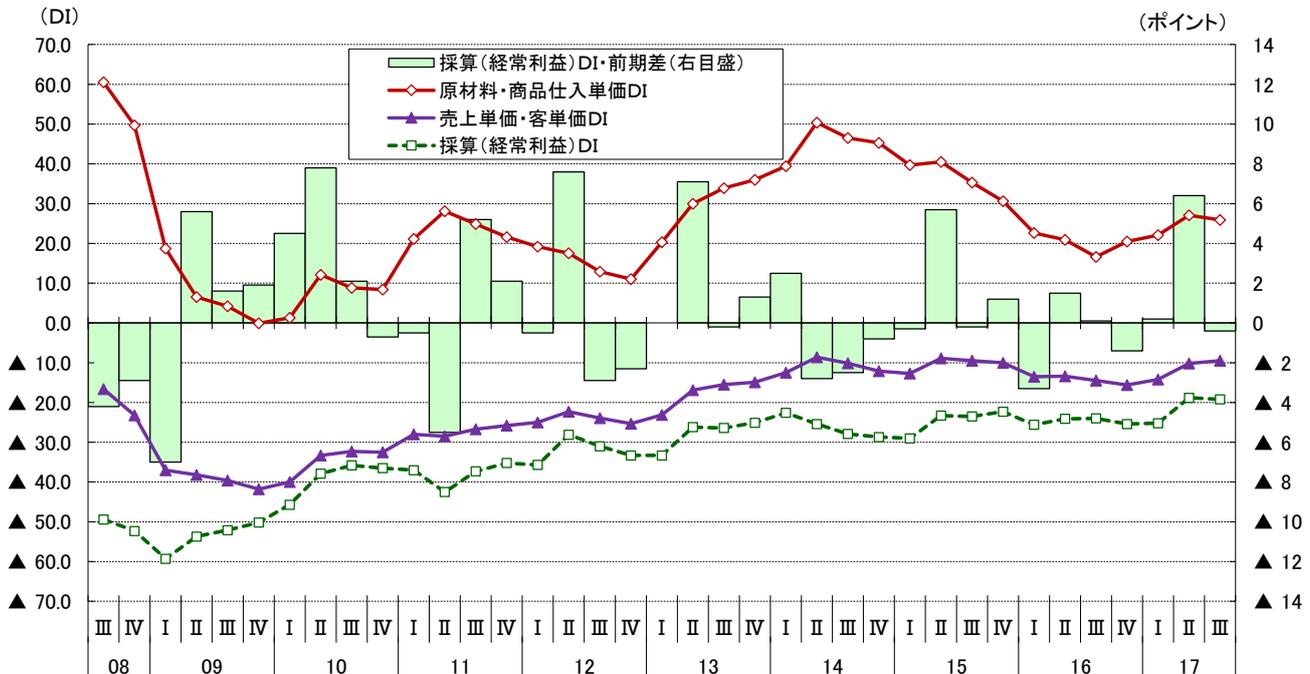
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期27.1→）25.9（前期差1.2ポイント減）と4期ぶりにプラス幅が縮小した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）は、（前期▲10.2→）▲9.5（前期差0.7ポイント増）と3期連続してマイナス幅が縮小したが、採算（経常利益）DI（同）は、（前期▲18.8→）▲19.2（前期差0.4ポイント減）と3期ぶりにマイナス幅が拡大した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



〔調査対象企業のコメント〕

- ・ 不漁による水揚げの減少及び仕入単価高騰のため、販売する製品の確保が困難である。売上に対し利益がでない。販売価格も値上げせざるを得ず、顧客離れも心配される。〔食料品 青森〕
- ・ 今期は例年に比べて7月の中旬過ぎまでは晴天続きで暑い日が続き、夏物に期待したが、7月後半から連日の雨で夏物は大変厳しい商売だった。長雨による農作物への影響による秋以降の消費動向が心配。〔小売業 宮城〕
- ・ 受注が一部の設備の生産に集中しており、生産設備が不足している。またそれに伴い残業や特別出勤の人材確保が困難な状況である。〔化学 富山〕
- ・ 請負単価の低い一日仕事や補修の契約が多く、大きな契約につながらない。天候不順で作業した工程が無駄になることもあり、売上増につながらない。〔建設業 愛知〕
- ・ 受注としては、順調に推移しており、引合いも活発ではあるが、熟練技術者の確保が難しく、人手不足により、納期対応が厳しい状況にある為、機会損失も増えている。また、国際情勢の不安から、積極的な投資が出来ない。〔輸送用機械器具 三重〕
- ・ 地域の開発で活性化を感じる。Web広告やSNSを使った告知により新規顧客の獲得が出来た。〔対個人サービス業 兵庫〕
- ・ 7月の豪雨の影響より客数が大幅に減少した。秋の紅葉シーズンに盛り返すよう頑張りたい。〔宿泊業 福岡〕
- ・ 仕入先（メーカー）サイドの値上げが、販売先に転嫁できてないことが気かりではあるが、販売数量は順調に推移している。総じて好況といえる。〔卸売業 鹿児島〕

〔調査要領〕

- (1) 調査時点：平成29年9月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,960のうち有効回答数18,294（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、サービス業の有効回答数5,874を集計したもの。）